

設置の趣旨等を記載した書類
(目次)

1	設置の趣旨及び必要性	P. 2
2	学部・学科等の特色	P. 5
3	学部・学科等の名称及び学位の名称	P. 7
4	教育課程の編成の考え方及び特色	P. 7
5	教員組織の編成の考え方及び特色	P. 11
6	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	P. 14
7	施設、設備等の整備計画	P. 18
8	入学者選抜の概要	P. 19
9	取得可能な資格	P. 21
10	実習の具体的計画	P. 21
11	企業実習(インターンシップを含む)や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	P. 26
12	昼夜開講生を実施する場合の具体的計画	P. 28
13	編入学定員を設定する場合の具体的計画	P. 28
14	2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画	P. 28
15	社会人を対象とした大学教育の一部を校舎以外の場所(サテライトキャンパス)で実施する場合の具体的計画	P. 29
16	多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画	P. 29
17	通信教育を実施する場合の具体的計画	P. 29
18	管理運営	P. 29
19	自己点検・評価	P. 30
20	情報の公表	P. 30
21	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	P. 30
22	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	P. 30

獣医学部

1 設置の趣旨及び必要性

1-1 ア 学部等設置の理由及び必要性

近年、地球規模の気候変動、国境を超えた有害化学物質の拡散、人口の増加と盛んな産業活動などが環境に大きな負荷をかけており、その結果人類を含む地球生物の持続的な発展が危機にさらされている。人口過剰や気候変動による食糧難、生物多様性の減少、新興・再興感染症の発生と流行は深刻化の一途をたどり、これら課題を解決できる人材が国際社会から強く求められている。獣医師は、動物の医療を中心的な専門領域としつつ、動物が関与する様々な領域にも活動の任を負っており、上記諸問題、特に、食料の安定供給、人獣共通感染症の予防、動物と人との共生、食品・医薬品の安全性確保などの、人類の生活基盤に関わる重要な問題の解決に責任を果たすことが求められている。

さらに日本国内では人口の高齢化が進んだ結果、心身ともに健康・健全な状態で寿命を全うすることが重要な課題になっている。少子化も進み「小さな世帯」が増加することも相まって、人々に安らぎ・癒しを与える伴侶動物の社会的立場は、今後ますます重要になると予想される。このような社会においては、人医療も大きく変化しつつある一方で、人の精神的健全性の支えとなるべき獣医療もまた、高度先端的獣医療を提供するなどを通し、社会の要請に応じた新たな役割を果たす必要性が問われている。国際的な視点を取り入れつつ、社会と連携した活動を展開することが、これからの獣医師に求められることは間違いない。

大阪は西日本随一の大都市であり、近畿圏内の食料流通の要として、また生命科学、医療分野の研究開発の中心として古くから発展してきた。さらに多数の外国人旅行者が訪れる国際都市としても栄え、常に人と物の集中と国際移動により生じる様々なリスクへの対応が求められている。

以上の社会情勢、地政学的状況を鑑みると、学際的・国際的な地域特性を活かしつつ、世界標準に対応した教育を通して実践力のある獣医師を養成する教育機関を、大都市大阪に設置することは必要不可欠である。そこで求められるのは、地域貢献の任を果たしつつ日本を含む国際社会の重要課題に対応できる獣医師の養成であり、地域および国際社会の要請に応じてグローバルに活躍できる人材の育成である。

このような社会情勢を受けて、大阪府立大学生命環境科学域獣医学類を承継して設置する獣医学教育組織には、特に次の3点を備えた体制が求められる。

- ① 公立大学としての役割である自治体との強い連携下にあって、獣医療及び福祉行政の一翼を担う教育研究組織として「よりスピーディーな意思決定と太い連携関係」を構築していること
- ② 高度な研究実績に見合う質の高い獣医学関連国際会議に参加して、医療・獣医療に関わる

科学技術の発展や獣医事諸問題への国際協調に遅延なく意思反映を行えること

- ③以上 2 点を通して得られた情報を迅速に獣医学教育に反映させ、海外機関との連携に根ざしたグローバルな人材育成を行えること。

これらの要件を満たすためには、本学に設置する獣医学教育組織は学部化することが必須と考えられる。なぜなら学部化は、獣医学教育組織としての意思決定を迅速化させるとともに、独立した組織配置が近隣の獣医療関係機関への信頼性を高め、これによりこれまで実現されなかった連携を可能にするとともに既に連携する組織との教育・研究・社会的貢献の関係を強固にするからであり、結果として、これら連携を背景とした「実践的教育体制」の構築と「研究教育」の高度化・国際化が、これによって達成されるからである。

社会における獣医師の需要としては、平成 19 年に農林水産省から「獣医師の需要に関する検討会報告書」が公表されている。その内容によると、小動物臨床獣医師は概ね良好な需給関係か、むしろ獣医師の供給数が需要を上回る傾向にある。一方で、産業動物臨床獣医師に至ってはすでに需要が供給数を大幅に上回り、さらにその差は、2040 年には年間約 4,000 人の需要に対して供給が 3,000 人程度という、大幅増加が試算されている（資料 1「獣医師の需給に関する検討会による需給見通しの推計値（2020～2040 年）」）。公衆衛生分野における需要は、現状では大都市部においてほぼ需要が満たされる傾向にあるが、北海道や九州など慢性的に採用難に陥っている地域がすでに散見されている。近畿圏においても、政令指定都市を除いて採用には苦勞しており、年度ごとの募集人員が満たされない地域も少なくない。今後ますます上記のように社会に求められる人材の幅が広がることが予測される中、より高度な能力を有する人材の需要は、近畿圏はもとより、全国的にもますます高まると考えられる。上述の獣医師の需給見通しに関する推計においても、公衆衛生分野の公務員獣医師の不足が予想されている。一方、小動物臨床獣医師については将来的に供給過剰に陥ることが予想されている。これはいくつかの前提条件に基づく推計で、例えば約 2,500 万頭の犬猫が、年間最大 6 回程度（獣医師 1 人あたり）診療を受け、診療の効率化がある程度（10%）上昇することを見越した上で計算されたものである。ここには上述のヒトと伴侶動物との関係の変化や、高度な獣医療に対する社会の需要という、小動物診療にみる診療内容の変化は見積もられていない。癌、糖尿病、ヘルニアなど、これまで十分なケアが施されてこなかった疾病に対し、QOL に配慮した高度獣医療を提供する小動物獣医師は、今後ますます社会から要望されると考えられる。

このような社会状況等を背景として、これまで近畿圏唯一の獣医師養成機関として大阪府立大学獣医学類の存在意義は高く認められてきた。例えば近畿地区の 7 府県 3 市に設置されている獣医師会から成る近畿地区連合獣医師会は、毎年大阪府立大学の獣医学類について、教育内容の充実と獣医学部・獣医学研究科の独立設置への協力を国へ求めてきた（資料 2「要望書（第 97 回近畿地区連合獣医師大会 提出議案）」）。このような状況を背景としつつ、大阪府立大学生命環境科学域獣医学類では近畿圏を中心として全国へ、様々な職種へ従事する獣医師を輩出している（資料 3「大阪府立大学獣医学類卒業生進路一覧（2016 年

から 2020 年度卒業生)]]。

分野によっては獣医師不足が懸念される中、獣医師養成機関たる大学の数が全国で 17 校に留まることも合間って、入学選抜試験の競争率は総じて高い。大阪府立大学獣医学類の一般入学試験（前期入試）における倍率も概ね 2.5 から 3.5 で推移しており、大阪公立大学獣医学部獣医学科においても、長期的かつ安定的に学生の確保が見込まれる。また、「学生の確保の見通し等を記載した書類」からも、本学部においては、長期的かつ安定的に学生を確保することができると考えられる。

1-1 イ 人材養成の方針およびディプロマポリシー

本学部では、動物と人、環境が共存・共栄できる社会の構築を理想と考え、動物の医療・福祉の向上、動物および人の病気の予防や健康の増進、環境の健全化に貢献できる能力を、国際標準の教育手法に準拠して教授する。さらに、日々発展する生命科学の新しい知見と技術を追求しつつ新たな科学技術を開拓できる人材養成を目的として、研究開発能力とプレゼンテーション能力を教授する。これらにより、国際的に活躍できる実践力を有し、高い倫理観と応用力、協調性を備え持った、広く生命科学の発展に資する問題解決型の人材を養成することを、本獣医学部・獣医学科の教育研究上の理念・目的とする。

この人材養成の方針に基づき、以下の能力を身に付けたものに学士（獣医学）の学位を授与する。

1. 自然科学から人文・社会科学に至る幅広い教養と高い倫理観を身に付けている。
2. 専門領域の以下の項目に関わる知識を有し、問題解決に応用できる能力を身に付けている。
 - (ア)細胞、組織から器官形成に至る動物の構造・機能
 - (イ)動物細胞を構成する要素の性状・役割、それらが統合して機能を発揮する仕組み
 - (ウ)食品・環境に由来する外的因子や薬物の生体への影響
 - (エ)病原体の特性と感染成立への理解、感染症の予防
 - (オ)動物の疾病の成因・修復機序、診断・治療・予防
3. 獣医学分野の広範な問題に取り組み、問題解決のために必要とされる情報収集と研究開発能力、得られた情報を社会に還元するために必要とされるプレゼンテーション能力を身に付けている。
4. 獣医師の社会的使命と責務を理解し、動物と人との共生、環境との調和に貢献する能力を身に付けている。
5. 地域および国際社会で活躍するために必要なコミュニケーション能力と協調性を身に付けている。

このような理念に基づき養成された人材は、獣医学の根幹をなす深い知識と科学リテラ

シーを身につけ、またそれに基づいて高度獣医療、食品の安定供給、新興・再興感染症、人と動物の共生などの諸問題を解決する知識、技術とコミュニケーション能力を有するものと期待できる。

社会がますます多様化、複雑化することを受けて、上記課題解決能力に対する社会ニーズは今後も益々増大する中(日本学術会議提言「わが国の獣医学教育の現状と国際的通用性」、2017年3月)、国内に存在する限られた獣医師養成機関の1つとして、その需要を担う役割を果たすことが本獣医学部・獣医学科設置の責務であると考えられる。

1ーウ 研究対象とする中心的な学問分野

【獣医学】 基礎獣医学、病態獣医学、応用獣医学、臨床獣医学

本獣医学部・獣医学科では、全国大学獣医学関係代表者協議会から示されている獣医学モデル・コア・カリキュラムの4つの学問分野を中心として研究を展開する。

- (1) 生物および動物個体に共通の構造学的・機能学的な成立要因を理解しつつ、動物個体の高次な構造・機能連関を深く追求する基礎獣医学に関する学理。
- (2) 動物生命体の構造・機能を恒常的に維持する機構と、これが崩れ病的な状態へ変化する原因・機序の理解を追求する病態獣医学に関する学理。
- (3) 動物を取り巻く環境が、人を含む動物、さらには地球生態系に及ぼす機序とその影響を深く追求し、生体や地球環境の健全性確保を目標とする応用獣医学に関する学理。
- (4) 動物生命科学の知識と技術を応用し、最終的に様々な動物の疾病の診断法・治療法を追求する臨床獣医学に関する学理。

この4つの学理、さらにこれを統合的に扱う学問分野も含め、本学部が目標とする教育達成のため、対象とする学理の追求を行う。

1ーエ 教育研究上の数量的・具体的な到達目標等

獣医師国家試験合格率95%以上を目標とする。

2 学部・学科等の特色

【概要】

本学部では、獣医学を次のように定義する。

動物生命科学を根幹としつつ、動物医療を中心とした専門性を通じて、動物と人、環境が共存・共栄できる社会を実現するための学問。

これに関連した知識と技術を習得した国際通用性のある人材に学位を授与する。その専門性の及ぶ範囲としては、医薬品を含めたバイオテクノロジー、動物性食品の安全性評価、

人獣共通感染症の診断・予防対策、環境汚染問題への取り組み、新興・再興感染症対策、高度獣医療、伴侶動物の健康維持と人の精神衛生との繋がり、生命倫理関連等が挙げられ、それぞれに対応した教育科目を配置して、これら広い分野で活躍できる人材を養成する。具体的な本学部の特色は以下の通りである。

【特色 1：国際通用性】

本学部の特色の1つは、国際標準の獣医学教育を教授することにある。様々な標準獣医学教育がある中で、特に欧州認証に準拠した教育システムを構築する。欧州の標準教育は、特に臨床教育が充実しており、体験的教育手法を大きく取り入れて実践力の醸成に注力している。これに準拠した教育により人材育成を行うことで、本学部でも実践力の高い人材の輩出を目指す。本教育課程を修了したものは国際機関など国際的な活動の場で専門性を発揮することが期待される。

【特色 2：近畿圏の関連機関との連携】

本学部では、地域社会と協力して体験学習を教授するため、大阪府内、近畿圏内に所在する高度教育機関、自治体等の試験研究機関等と連携する。これにより、実際に獣医師が社会の中で活躍する場を体験させ、地域社会での実践力の醸成に役立てる。その一例として、本法人の設立団体であり、動物愛護畜産衛生行政を所管している大阪府と連携を緊密にし、本学部の教育の充実と地域への貢献を推進していくため、「獣医学部設立に向けた公立大学法人大阪と大阪府との連携に関する協定書」を締結した。(資料4)

また世界的な研究拠点が存在する学研都市の近隣に立地する特徴を利用して、拠点となる研究機関等とも連携することで、動物バイオサイエンスに関連する基礎獣医学の知識・技術の教授に役立て、研究開発に関わる能力開発も目指す。

【特色 3：都市型獣医学教育】

本学部は、近畿圏唯一の獣医師養成のための高等教育機関である。近畿圏の中心に位置する大都市大阪に設置され、地域特性を享受した教育を展開することができる。大都市の特性として人口が密集すること、伴侶動物の飼育頭数が多いこと、食料の流通量が多いこと、その結果、人、動物、食料の接点が多岐にわたり複雑に互いに関与していることなどが挙げられる。食中毒や人の感染症の発生件数や小動物診療件数も多く、獣医学教育に必要とされる教材が豊富にある。このような地域特性を活かして行う実践的な獣医学教育を「都市型獣医学」と標榜し、特に都市圏の課題解決に能力を発揮する獣医師の養成を目指す。

【特色 4：部局横断型教育連携】

大阪公立大学では設立にあたり、大阪の発展を牽引する「知の拠点」をめざすことを命題と位置づけ、これを達成するために大学に「2つの新機能」を付加することにより「4つの

戦略領域」に重点的に取り組むことを明確に打ち出している。戦略領域の1つに「バイオエンジニアリング」を挙げ、「バイオ」と関連する理学、工学、農学、医学、獣医学が学際的な研究体制を構築することで、新領域研究の開発・発展を促す基本戦略を推進する。獣医学部でもこの方針に則り、大学院教育を中心としてバイオエンジニアリングに取り組むが、結果としてこの取り組みは、獣医学科の教育科目「卒業研究」にその効果が波及する。例えば学生は4年次以降、研究室に配属され卒業研究に取り組む際、医獣連携研究をテーマとする研究活動に参加する機会を得ることが可能となる。また全学的副専攻である「創薬科学副専攻」（理学部、農学部、獣医学部の連携教育）や、「食生産科学副専攻」（農学部と獣医学部との連携教育）で提供される多彩な教育プログラムも履修することが可能となっており、大学の戦略と一致した学際教育指向性が付加されている。

3 学部・学科等の名称及び学位の名称

3ーア 学部・学科等の名称及び当該名称とする理由

本学部は、人と動物の生命科学を通じて社会福祉に貢献することを目的とする獣医学を基盤とする領域であり、動物医療を中心として動物生命科学から公衆衛生学まで包含する学際的な教育を行う。従って、学部の名称を「獣医学部」とし、その中に「獣医学科」を設置する。

3ーイ 学位の名称及び当該名称とする理由

本教育課程では、動物医療を中心として動物生命科学から公衆衛生学まで包含する学際的な教育を行い、人と動物の生命科学を通じて社会福祉に貢献することを目的とする獣医学を修めたものに学位を与える。従って学位の名称を「学士（獣医学）」とする。

3ーウ 学部・学科等及び学位の英語名称

学部の英語名称：School of Veterinary Science

学科の英語名称：Department of Veterinary Science

学位の英語名称：Bachelor of Veterinary Science

4 教育課程の編成の考え方及び特色

4ーア 教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を養うために、以下の方針で教育課程を編成する。また、各科目の学修成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などで評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。以下が教育課程の編成方針である。

1. 自然科学一般、さらには人文・社会科学に至る教養を幅広く修得し、高い倫理観をもち、グローバルな視点から物事を考えることのできる素養と能力を養う。
2. 動物の生体諸機能を維持するための細胞、組織から器官形成に至る知識を修得し、問題解決に応用できる能力を養う。
3. 動物細胞を構成する様々な要素の性状・役割とその統合に関する知識を修得し、問題解決に応用できる能力を養う。
4. 食品・環境に由来する外的因子の生体への影響に関する知識を修得し、問題解決に応用できる能力を養う。
5. 病原体の特性と感染症成立についての理解およびその予防に関する知識を修得し、問題解決に応用できる能力を養う。
6. 動物の病態の成因・修復機序および疾病診断に関する知識を修得し、問題解決に応用できる能力を養う。
7. 動物における種々の疾病の診断・治療・予防に関する知識を修得し、問題解決に応用できる能力を養う。
8. 獣医学分野の広範な問題に取り組み、問題解決のための調査・研究の手技・手法を修得するとともに、ドキュメンテーションやプレゼンテーションの能力を培う。
9. 獣医師の社会的使命と責務を理解し、その責務を果たすべく適切に行動する能力を養う。

4ーイ 教育課程の概要及び特色

【概要】

本学部では、獣医師養成に重点をおいた獣医師国家試験出題基準に対応する体系的な6年制の高度専門教育を行う（資料5「獣医学部獣医学科カリキュラムマップ」参照）。また、4年制の博士課程に進学するうえでの基礎学力を修得させることを目指す。これらに加えて本学部・学科の特色である、国際通用性があり実践力を有する人材を育成する教育を実施する。

初年次には主に基幹教育科目を修得させ、並行して専門教育の基礎となる生物学、化学、情報科学等の基礎学力を身につけさせる。この中では、獣医学の担当学問領域、獣医師と社会との繋がり、獣医師が国際社会で担う責務と国際活動実績など、社会貢献に関する職業教育も含める。その後順次、獣医師として様々な職域の社会的使命を遂行するのに必要な高度な専門技術に関わる科目を履修させる。具体的にはまず、動物の解剖、生理などに関する基礎獣医学教育分野、微生物、感染症などに関する病態獣医学教育分野、衛生、毒性などに関する応用獣医学教育分野、ならびに外科、内科などに関する臨床獣医学教育分野の専門科目を開始する。これら専門科目を、全国大学獣医学関係代表者協議会で策定されたコア・カリキュラムに準じた必修科目として4年生・前期までに配置し、教育内容の関連性と学習の難易度などを考慮して、それぞれ妥当な年次に開講する。

その後、約1年間、本学の特色である国際通用性、関連教育研究機関と連携した体験型教育等を活用した参加型臨床教育を実施し、体験型の学習手法を通して、卒業時点で一定の実践能力を身につけた人材を育成する。

また、それまでに培った獣医学の知識と技術をさらに発展させるため、卒業研究を課すことで、社会の課題を解決するために必要とされる情報収集能力、学問学理の追求能力、社会への科学技術の還元に関する能力を習得させる。

上記科目の配当年次の考え方は、獣医学を包括する各科目の担当分野の階層性を考慮しており、大まかな順番としては基礎獣医学、病態獣医学、応用獣医学、臨床獣医学を一部オーバーラップしながら順次履修できるよう配置する（資料5「獣医学部獣医学科カリキュラムマップ」参照）。また単位数は現行の単位数を基礎として、さらに国際水準の教育内容を付与するために、欧州獣医学教育機関協会（European Association of Establishment for Veterinary Education）の認証取得条件に掲げられる各教育内容にかかる必要教育時間数を参照して決めている。これら教育課程で提供する科目内容と、人材育成像との関係については、ディプロマポリシーとの関係も含めて関係性を記載している資料5「獣医学部獣医学科カリキュラムマップ」に記載のとおりである。

本学部では、学生全員へ履修を義務付ける必修科目の他、学生の興味や進路に応じた選択科目群を配置する。1つには上述の副専攻科目がそれで、獣医学領域が大きな社会的役割を演じる創薬科学と、食の安全・安心に関わる食生産科学について、教育プログラムを主に低学年で提供する。また、5年次から6年次の高学年では、進路に合致した選択科目を提供する。例えば創薬関連企業を指向する学生向けに「疾患モデル動物学」、「創薬学概論」、「獣医環境病理学」、「動物行動解析学」を、また獣医学領域のグローバル化をより深く学びたいと考える学生向けに「海外インターンシップ」を、産業動物の疾病予防に関与する職業を希望する学生には「病勢鑑定実習」や「大動物野外診療実習」を、伴侶動物獣医療の知識と技術を特に習得したい学生向けに「先端的動物診断治療学総論」、「伴侶動物獣医療実習F」を提供する。

【具体的な内容・特色】

本学部の教育は、以下の4つの科目区分と、1つの副専攻から成る。

1. 基幹教育科目

基幹教育の内容については、大阪公立大学設置の趣旨等を記載した書類を参照。なお、専門教育の基礎学力を身につけさせる目的で、生物学、化学、情報科学等の基礎専門科目の履修を課す。

2. 専門科目

初年次から獣医学教育の基礎的な知識を身につけるために必要な専門科目を配置する。これには獣医学が担当する職業、社会的職責について解説する科目「獣医学概

論」や、動物の基本的な特性と取扱方法を理解させる科目「小動物基礎臨床実習」、「基礎実験動物学」、「野生動物学1」、「獣医解剖組織学A」も含まれる。獣医学の根幹となる専門教育は主に2年次以降に本格的に開始する。具体的には基礎獣医学である解剖学、生理学、生化学、細胞生物学等で、これら科目の習得を通して生物が恒常性を維持する仕組みと意義について理解させる。その上で、正常と病気の違いに基づいて病態の学理を教授する。また、疾病を制御する外的要因、化学物質や病原微生物の特性に関する知識を教授して、病態形成に至る動物の体の機能変化の機序を理解させる。これらの知識に基づいて、動物の病気を診断、予防と治療する手法について学修させる。また、獣医学が担当する広範な社会問題に対し、これまで学修した知識と技術を応用する手法について疫学的見地、公衆衛生的見地から教授する。このような社会学的な教育には、関連施設を訪問し、獣医師等が実際に社会に貢献する現場を見学するという手法を取り入れて、社会における責務を体験学修する機会を設ける。上記科目の履修がほぼ終了する3年次・後期以降に、動物の疾病治療を目的とする臨床科目を配置し、様々な動物の疾病を治療する具体的な手技と、治療に伴い獣医師が対応すべき課題の解決法を習得させる。

3. 参加型臨床教育科目

獣医学の広範な基本知識・技術を習得した学生に、4年次以降、実際の臨床現場を実地に体験する体験型学修を通して、実践力の醸成を行う。また、公共獣医師が担う大きな社会的責務を意識して、獣医公衆衛生、家畜衛生に関わる参加型実習も配置し、その履修を通して実践力を身につけさせる。

4. 卒業研究

本学の特色である国際通用性、関連教育研究機関と連携した体験学教育等を教授すると共に、それまでに培った獣医学の知識と技術をさらに発展させるため、卒業研究を課すことで、社会の課題を解決するために必要とされる情報収集能力、学問学理の追求能力、社会への科学技術の還元に関する能力を身につけさせる。

5. 食生産科学副専攻

大阪という都市・文化背景を意識し、食の安全を担うエキスパート人材を育成する特色ある副専攻プログラムを、選択科目として、希望する獣医学科学生へ提供する。食料の生産から流通、食卓に至るまでのフードチェーン全体について、食の安全に関わる仕組みを教授する座学と実習・演習を配置する。単なる学術的知識を与えるのではなく、食品生産・流通における実務家・専門家を非常勤講師として採用し、実践的・現場主義の教育を行う。食のグローバル化も意識して、海外への演習参加を必修とし、日本向けの食料生産・加工の実態と衛生管理について実体験させる。また、東南アジア

ア及びオセアニアの関連分野の大学生・大学院生との交流も通して、国際性とコミュニケーション能力を養う。本副専攻は、獣医学科と農学部・応用生命科学科の教員が共同して行う教育プログラムで、両学科の学生を対象に、動物性食品（食肉・乳・卵）と植物性食品（野菜・果物）の両方について専門教育を行うのが特色である。また、国内外の食品企業、行政組織、大学等の協力を得て行うことで、産官学連携教育という色彩を持たせており、学問の社会実装を強く意識させる内容となっている。副専攻修了者には修了証を授与し、学生はこれを就職活動等で活用することが可能になる。

5 教員組織の編成の考え方及び特色

5-1 ア 教員組織の編成の考え方

本学部では、獣医学の基盤概念とこれに関連する広範な知識・技術を教授するために、全国大学獣医学関係代表者協議会で策定されたモデル・コア・カリキュラムに則した教育科目群を必修科目として配置するとともに、国際標準の実践力付与を目的とした参加型臨床実習等を配置し、さらに、獣医学領域の研究開発能力の涵養を目的とする卒業研究を配置する。これら科目を効果的にディプロマポリシーに掲げる人材の育成へ波及させるため、教育・研究ならびに実務経験において優れた知識、能力、および実績を有する専任の教授、准教授、講師、助教を科目担当者として配置する計画である。

これを踏まえて編成した教員組織は、教育科目を「動物構造機能学」、「獣医環境科学」、「獣医臨床科学」の3分野に分類し、それぞれの分野科目を責任を持って担当する主たる専任教員（教授または准教授、あるいはその両者）を配置するものとなっている。

【動物構造機能学分野】

動物の複雑で多彩な生命現象について、遺伝子・タンパク質・細胞小器官・細胞・組織・個体における、様々な生体内機構について動物種差を念頭におき形態学および機能学的観点から統合的に教育することに加え、最新の動物バイオテクノロジーに関する情報を教授する。

【獣医環境科学分野】

生命環境の健全性、産業動物や伴侶動物と人における健康の維持・向上について、獣医学的観点から分子・細胞・個体さらには群レベルにおける危害因子の生体への影響と作用機構及びその制御、食の安全に係わる事項並びに先端技術を駆使した解析評価方法についての教育を行う。

【獣医臨床科学分野】

動物疾病の最新の診断、治療及び予防法、また、環境の変化により引き起こされる動物の疾病や生産障害の発生機序並びに病態を個体・細胞・分子レベルで教育する。さらに、疾病時における病態の発生機序とその病理形態学的変化について教授する。

各分野の専任教員は、研究対象学問分野に関連する獣医師国家試験出題基準に対応する科目だけでなく、高度専門獣医療、人と動物の共生と動物の福祉、食品の安全、創薬、動物関連バイオテクノロジー、海外からの種々の動物の搬入に伴う病原体の侵入対策、人獣共通感染症を含む環境由来危険因子の評価等、拡大しつつある獣医学関連領域における新たな学問領域の教育も担当する。本学科で開講する専門科目のうち、必修科目を中心とした教育上主要と認める科目については、専任の教授または准教授を担当者として配置するが、一部の専門性の高い科目については、その学問分野において高度な知識と経験を有する他機関の専門家を非常勤講師として配置する。なお、演習や実験・実習など実技を伴う授業科目については、教授または准教授に加えて、もう1名の准教授、あるいは講師や助教等を配置した複数名での教育指導体制を整え、十分に学生指導を行えるよう配慮を行う。また、専任教員は教授会、各種委員会などの組織を通じて、教育研究の遂行や学部管理の運営に責任を持って取り組む。

5-1 イ 教員組織の編成の特色

獣医学モデル・コア・カリキュラムに準じた必修科目を教授するため、その科目群と概ね対応させた教員組織を編成することが特色である（下表、表1参照）。すなわち、モデル・コア・カリキュラムにある「基礎獣医学教育分野」を主に担当する教員組織として動物構造機能学分野を、「病態獣医学教育分野」と「応用獣医学教育分野」を主に担当するものとして獣医環境科学分野を、「臨床獣医学教育分野」を主に担当する教員組織として獣医臨床科学分野を編成する。「導入教育」と参加型実習科目については、全教員で担当する。「病態獣医学」と「応用獣医学」を1つの組織（獣医環境科学分野）で担当する理由として、互いに密接に関連したこれら教育分野科目に対して、教員相互に連携しつつシームレスな教育を実施することにより、高い教育効果を得る工夫を凝らしたためである。また同様に教育効果を高めるため、一部の教員については、その専門性がモデル・コア・カリキュラムでの分類とは若干異なる組織へも配置し、柔軟性を高める。

表1『獣医学科の3つの分野とそれらが主に担当するモデルコアカリキュラムの科目群』

モデル・コア・カリキュラム	獣医学部獣医学科		
	動物構造機能学分野	環境科学分野	臨床科学分野
導入科目	○	○	○
基礎獣医学	○	—	△*2
病態獣医学	△*1	○	—
応用獣医学	—	○	—
臨床獣医学	△*1	—	○
参加型実習科目	○	○	○

*1 動物構造機能学分野に組織される獣医病理学を専門とする教員は（下表、表2参照）、モ

デル・コア・カリキュラムで分類される病態獣医学及び臨床獣医学の教育分野も一部担当する。

*2 臨床科学分野に組織される獣医放射線学を専門とする教員は(下表、表2参照)、モデル・コア・カリキュラムで基礎獣医学に分類される放射線生物学も担当する。

表2 「各分野に配置された研究グループ」

分野名	研究グループ名		
動物構造機能分野	獣医解剖学	獣医病理学	実験動物学
	統合生理学	応用薬理学	細胞分子生物学
環境科学分野	毒性学	獣医公衆衛生学	獣医免疫学
	獣医微生物学	獣医感染症学	獣医国際防疫学
臨床科学分野	細胞病態学	獣医放射線学	獣医繁殖学
	獣医内科学	獣医外科学	特殊診断治療学

本学部の専任教員のうち完成年度までに定年に達する教員が9名いる。うち7名は、担当する授業科目がそれぞれモデル・コア・カリキュラムにおける基幹科目として位置付けられており、それら専門分野の特性等から同じ専門性を有する後任を直ちに確保することが困難である。従って、公立大学法人大阪で定める「定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として雇用する場合の取扱いについて」を根拠に、定年に達した後も特任教員の身分で主要科目を担当する専任教員として完成年度まで雇用し、教育の実施に支障のないようにする。

なお、定年後雇用する教員の後任となる教員は、教員構成のバランスを考慮しつつ計画的にその確保に努めることとしており、本学部の教員組織の継続性に問題はない。

資料6：定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として雇用する場合の取扱いについて

5-ウ 専任教員の年齢構成

完成年度における専任教員の年齢構成については下表のとおりである。専門性の高い獣医学教育を、十分な知識と技術を有し、教育手法に長けた教員によって教授することが、この配置の主な理由である。これにより、本学部における多様な学術的分野における教育研究水準を維持、向上し得る体制になっている。

本学部が完成年度を迎える令和9年度(2027年度)には、40歳代、50歳代、60歳代の教員がほぼバランスよく配置(10名~16名)されているが、今後は年齢構成の高齢化を見据えた対応が必要であり、以降の教員採用計画では若手教員の積極的な登用を予定している。

教育研究を継続的に行うためには若手教員が必要不可欠であるという考えのもと、本学部では、新たに採用人事を行う際には特段の事情がない限り 30 歳台～40 歳台の若手教員を優先採用する方針を立て、候補者の年齢を重要な判断基準の 1 つとすることとする。今後、年齢構成を是正するための取り組みとして、教育の充実を目的とした昇任・採用人事を進め、また、年次を追うごとに専任教員が退職年齢に達した場合においては、それを補うための人事選考を行う。その際は、上記の方針に基づき若手教員を積極的に登用する。

なお、完成年度までに定年に達する専任教員 9 名のうち、7 名は定年後の継続雇用を予定しており、その規程については資料 6 に示す。これら教員を継続雇用する理由は、それぞれが当該学問分野において高い専門性を有することに加え、長年にわたる教育研究経験を有し、その経験を補える人材はすぐに見つけることが困難であるためである。しかしながら、これら人材を継続雇用することにも限界があり、また長期にわたり一定の教育の質を担保するためにも、助教から准教授クラスの教員へのファカルティ・デベロップメント活動を行いながら上位への職階への昇任に努めるとともに、上記に記載の採用人事の方針により、新しい人材の新規採用を計画する。これにはモデル・コア・カリキュラムの科目分野ごと、あるいは研究グループごとに、専任教員の職階構成を確認しながら、昇任人事と、助教クラスの採用人事を組み合わせることで対応する予定である。

これらの採用人事における取り組みにより、長期にわたり各分野の高い専門性と教育の質を担保することができる。

表 3 「専任教員の年齢構成表」

職名	29 歳以下	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上	計
教授				3	10	13
准教授			5	9	5	19
講師			2			2
助教		1	3	3		7
計		1	10	15	15	41

6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

6ーア 教育方法等

講義科目は基本的に 1 学年のみを対象とし、毎年開講する。講義科目の一部には、社会における実務経験が豊富な非常勤講師を招く。1 年次から 5 年次に配当する実習科目は複数教員による担当を基本とし、原則 1 学年（定員 40 名）のみを対象とし、毎年開講する。一部の実習科目は、主に外部機関や本学部附属動物病院での十分な実習経験を積ませるために、2 年にわたる期間の提供となる。十分な実習材料を準備するなど体験型実習に重点を置き、現場教育を充実させ教育効果を高める。演習科目では多様な観点からの教育を行なう目的

で、複数の教員による講義を可能とする。1年次には主に、基本的社会性を醸成するための基幹教育科目を配置するとともに、専門科目を履修するために必要な基礎的能力の涵養を目的とした基礎教育科目を配置する。また獣医師の職域を理解させるための「獣医学概論」、を提供する。動物（伴侶動物と産業動物）の基本的な特性と取扱方法を理解させる専門領域の講義・実習科目群も1年生に配置する。2年次以降は、専門科目を履修することが中心となる。2年次・前期には基礎獣医学教育分野の科目、2年次・後期から3年次・前期にかけて病態獣医学と応用獣医学の教育分野科目、その後4年次・前期にかけて臨床獣医学教育分野に関する授業科目を割り当てる。4年次前期終了後に共用試験を実施し、合格したものを対象として参加型実習科目を履修させる。また4年次前期開始時から各研究室へ少人数ずつ配属し、研究の基礎能力を付与するための卒業研究をほぼ3年間にわたり履修させる。

本学部の教育は、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに沿って行われる「コア」部分と、本学が独自性を発揮する「アドバンス」部分に分けられる。コアに相当する科目群は、4年次前期までに必須科目として提供され、すべての科目の履修を前提として、4年次9月に実施される「共用試験」の受験を課す。共用試験の合格者のみが4年次後期から開始される「参加型実習」を履修することが可能となる。コア部分の科目については、上記モデル・コア・カリキュラムで設定されている方法（講義か実習か）に準じて教授される。本獣医学科は、現行の獣医学類での教育課程と同じ40名を学生定員としており、これを1つのクラスとして、講義科目については座学で教育する。また実技の習得を必須とする教育科目については、別途技術習得のための教育目標に従って実技教育を行う。実習は基本的に5～8名程度を1つの班として、班ごとに協力して課題に取り組ませる形式で行う。現在の獣医学類での教育施設・設備を使用する計画であり、現状と学生定員が変わらないため、獣医学科においてもこれまで同様の十分な教育効果をあげられる。

4年次後期からは参加型実習の履修を開始する。本獣医学科では、教育の国際整合性を意識して、新設の参加型実習科目をいくつか配置する。これらの多くは外部機関と連携して実践的教育を行うが、連携する受け入れ機関と協議の上、十分な教育効果が見込める適切な人数の班に分ける内容となっている。

5年次以降は、アドバンス科目として、卒業後の希望進路に応じた選択科目を配置し、それぞれの専門性に合った科目を学生が選択し、その分野の学修を深めることができるように工夫する。学生は、基礎獣医学の専門性を応用する創薬科学を選択するか、獣医公衆衛生学系の知識と経験を発展させる国際インターンシップを選択するか、あるいは伴侶動物獣医療、産業動物獣医療の知識と技術を発展させる科目群を選択するか、選ぶことが可能である（カリキュラムマップ参照）。

1年間の授業期間は、全学に合わせて4月上旬から8月上旬に至る前期期間と、9月下旬から2月上旬に至る後期期間で構成される。合わせて35週／年にわたる中で、提供される各授業科目は15週にわたる（2単位の場合）ものとなっている。講義は90分を1回として週1回提供することを基本とするが、一部講義は集中講義としてより短期間で提供され

る。この場合は15回分を週(日)に複数回提供し、15週を待たず短期間(極端な場合4日程度)での履修完了を可能とする。

6-1イ 履修指導方法

新入生に対しては入学時にカリキュラムオリエンテーションを行い、6年間のカリキュラムの概要、履修上の注意事項、各授業科目の意味付けなどについて説明する。学生はこれによって6年間の教育プロセスの中のそれぞれの期間で学ぶべき大きな学習目標を理解しながら、年次進行の教育を受けることができる。さらにすべての授業は、各授業科目の目的、概要、授業計画、テキスト・参考資料、成績評価基準等を記載したシラバスを、履修登録開始前にWeb上で公開し、学生が授業の内容を事前に理解した上で履修に臨むことができるよう配慮する。

各学年には学年アドバイザーと名付けた「学年担任」を配置し、個々の学生の求めに応じて履修に関する相談に応じる体制を整える。4年次には卒業研究が始まり、各学生は配属研究室を選ぶことになる。この際にも、学年アドバイザーが事前に説明会を準備、必要に応じてそれぞれの研究室の基本情報を学生へ開示するとともに、個々の学生が研究室を事前訪問して情報収集しやすい環境を整える。これによりその後3年間にわたる研究室での学修において支障が生じるリスクを低減する。入室する研究室により、アドバンス教育(選択科目)の方向性が決まり、科目選択の幅が決定する。選択科目の受講については研究室の指導教員が主にあたることになるが、学年アドバイザーが必要に応じて補助的に関与する。

上記のように1~3年次までの期間は学年アドバイザーが主体となり、教務関係の事務職員、学科の教務担当教員と連携しながら履修指導を行う。4年次以降は専門性が高まることを受け、研究室の研究指導教員と学年アドバイザーが連携し合いながら主体的に履修指導を行い、これに教務関係の事務職員、教務担当教員等が関与しながら、適切な履修指導を行う計画である。

6-1ウ 卒業要件

授業科目は、基幹教育科目と専門科目により構成される。学生の興味・関心に基づいた自由な履修を可能にするために、必修選択科目をある程度配置する。科目区分ごとの卒業に必要な単位数は以下のとおりとする。

科目		単位数	
基幹 教育科目	総合教養科目	選択必修10単位	
	初年次教育科目	必修2単位	
	情報リテラシー科目	必修2単位	
	外国語科目	英語	必修6単位
		他4単位を 選択必修	

		初修外国語	必修 2 単位	
	健康・スポーツ科学科目	講義	必修 2 単位	
		実習	必修 1 単位	
	小計		29 単位	
	基礎教育科目		必修 6 単位	
			選択必修 2 単位	
専門科目			必修 172 単位	
			選択必修 2 単位	
合計			211 単位	

ここでの必修科目のうち、特に専門科目については 172 単位を要卒業要件単位として配置する。これは、獣医学モデル・コア・カリキュラムで求められる科目に加え、参加型実習科目と卒業研究に関連した科目である。さらにアドバンス科目として選択科目群（通常 1 単位/科目）を配置し、この中から 2 単位取得することを卒業のために必要とする単位数とする。本獣医学科の特色として、参加型実習科目の中のアドバンス相当の教育内容が含まれていることがある。参加型実習科目としては、①「と畜場実習（1 単位）」、②「食品加工実習（1 単位）」、③「公務員獣医師インターンシップ（1 単位）」、④「産業動物診療実習（2 単位）」、⑤「生産獣医療実習（4 単位）」、⑥「伴侶動物獣医療実習 A～E（計 16 単位）」、⑦「伴侶動物夜間・救急獣医療実習（1 単位）」を配置する。このうち④から⑦が臨床実習に相当するが、内容的には獣医学モデル・コア・カリキュラムの「総合参加型臨床実習モデル・コア・カリキュラム」の到達目標を基礎とするが、ほぼ 1 年間にわたり十分な現場教育を行うことで、豊富な経験と技術の習得を目指しており、本学の特徴的なアドバンス教育としても位置付けられる。また、①から③については、公共獣医療に関する内容であるが、コア・カリキュラムでも求められていないアドバンスな内容で、これも本学の特色のある教育内容として位置づけられる。これらとともに、本学科の教育理念を受けて実施するもので、卒業後に即戦力となれる、国際通用性のある能力を持つ人材を養成するために提供する授業科目である。これらに加えて、基本的な研究能力も付与することを目的とした「卒業研究」の履修を義務付ける。卒業研究では、研究の開始時期から研究実行中、そして卒業論文の作成に至る全ての期間において、研究関連情報を収集するため、その内容を読み取るため、それらを取りまとめた上で第三者へわかりやすく伝えるために必要な時間として、概ね 120 時間を想定している。これに実験に要する時間を 600 時間と見積もって、計 720 時間の総時間数を想定し、4 年次前期から 6 年次後期までの 6 セメスターにわたり、各セメスターに 2 単位分を配当して計 12 単位とする。4 年生は研究活動への導入・馴化期間、5 年生は研究を発展させる期間、6 年生は研究を完成させ、論文としてまとめるための期間と位置づけ、それぞれの達成度を評価して単位を授与する。

6一エ 履修モデル

別紙 資料7「履修モデル（獣医学部）」のとおり。

6一オ 多様なメディアの活用

該当なし

6一カ 履修科目の上限設定

本獣医学科では多様な学びを選択することができるよう、副専攻の履修を可能とする。そのため履修科目に上限を設け、過度の負担を負わないよう配慮する。1年次においては、実験・実習・演習を含めて、年間50単位未満、前期25単位以下、後期25単位以下とする。2年次以降は年間60単位を上限単位数と設定する。

また、成績評価にあたってはGPA制度を採用し、厳格な成績評価に努める。

6一キ 他大学における授業科目の履修等

実践力を強化すると共に、多様な分野の知識技術を習得させるため、他大学の授業科目を履修する機会を提供する。教育連携を締結する大学において提供される講義、実習等を、学生の希望に基づき、各大学の科目履修制度を利用して履修させることが可能である。

7 施設、設備等の整備計画

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

イ 校舎等施設の整備計画

教育研究に使用する施設、設備等

獣医学部において教育研究を行う施設、設備については、「大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類」に記載のほか、森之宮キャンパスに新たに建設する新校舎の施設と大阪府立大学のりんくうキャンパスの施設・設備等を継承する次の施設、設備等により実施することから、学生、教員に対して十分な教育研究環境を提供するものである。

1) 講義室・演習室・研究室等

獣医学部では、授業の形態に応じて講義室や演習室等の施設を使用し、専任教員には研究室を割り当て、学部教育と大学院教育を実施する。獣医学部における施設概要は次のとおりである。

【施設概要】

・講義室7室

- ・演習室 5 室
- ・研究室 43 室（教員室等を含む）
- ・実習室 140 室（実習室、実験室、動物飼育室、診察室の他、関連諸室を含む）

2) 実験施設・設備等

獣医学部における実験の授業科目は、140 室ある実験室において実施する。

獣医学部における実験施設関連・設備等は次のとおりである。

【実験施設・設備等】

獣医学部獣医学科

- ・実習室 140 室

（設備等）発光検出装置、タイムラプス生細胞観察顕微鏡システム、共焦点レーザー顕微鏡、透過型電子顕微鏡、走査型電子顕微鏡、光学顕微鏡、高速冷却遠心機、生体分子間相互作用分析装置、フルオロイメージアナライザー、ドラフトチャンバー、質量分析装置、遺伝子増幅装置、遺伝子電気泳動装置、タンパク質電気泳動装置、レーザーマイクロダイセクション、遺伝子導入装置、液体クロマトグラフィー、ガスクロマトグラフィー、超純水製造装置、純水製造装置 ほか

- ・獣医臨床センター

超音波診断装置、X 線検査装置、CT 検査装置、MRI 検査装置、放射線治療装置、麻酔関連・手術関連装置、血清学・血液学臨床検査装置 ほか

8 入学者選抜の概要

8ーア アドミッションポリシー

本学部は、本教育課程を卒業するためには、基礎獣医学、病態獣医学、応用獣医学と臨床獣医学の各科目群の習得を課すと共に、加えて獣医師としての実践能力と動物生命科学者としての研究能力を醸成させる教育を行う。このような教育を通して、単なる動物の専門家たる獣医師ではなく、動物生命科学の専門性を有しつつも、国際社会が抱える人文科学分野、生命科学分野の諸問題の解決能力をも有する人材の育成を目指す。

したがって、本学部・学科では、次のような学生を求める。

1. 動物に対する先端医療、人間と動物の共生、国内及び国際的に問題となっている感染症、及び安全な食料の安定供給について学ぶことに対し明確な目的意識を持ち、社会の持続的発展に貢献する意欲を持っている人
2. 生物学、科学全般に幅広い興味を持ち、論理的な思考力・判断力・表現力と自ら進んで

学ぶ探求心を持っている人

以上にに基づき、次の1～3の能力や適性をもつ学生を選抜する。

1. 大学入学共通テストを課すことによって、高等学校教育において習得すべき科目の内容を広く学習し、高い基礎学力を有していることを確認する。
2. 個別学力試験によって、数学、英語、生物学、物理学、化学に関する思考力・判断力・表現力を確認する。
3. 特別選抜では、調査書、推薦書、志願理由書、活動報告書、英語4技能試験成績証明書、面接、小論文等により、獣医師としての適性、論理的な思考力、科学全般への幅広い興味や自ら進んで学ぶ探求心、さらに多様な人々と協働して学ぶ態度や国際的な視野を持っているかを確認する。

8ーイ 入学者選抜の方法と体制

獣医学部のアドミッションポリシーに即した能力と適性を判定するために、一般選抜前期日程では個別学力試験（数学、理科、英語）を課し、大学入学共通テスト（5教科）の成績と総合して選抜する。特別選抜の学校推薦型選抜を新たに導入し、書類審査（調査書、推薦書、志願理由書、活動報告書、英語4技能試験成績証明書）、小論文と面接を課し、大学入学共通テスト（5教科）の成績と総合して選抜する。また帰国生徒特別選抜と私費外国人留学生特別選抜を実施し、帰国生徒については学力試験（数学と英語）、小論文と面接により選抜し、外国人留学生については日本留学試験、小論文と面接により選抜する。さらに特別選抜に産業動物獣医師地域枠を新たに設定し、書類審査（調査書、推薦書、志願理由書）、小論文と面接を課し、大学入学共通テスト（5教科）の成績と総合して選抜する。一般選抜入試による定員を35名、学校推薦型選抜の定員を5名（産業動物獣医師地域枠 若干名を含む）とし、それ以外の入試による定員を若干名とした上で、総定員としては40名を定める。

8ーウ 多様な学生の受入

上述の通り、学生の選抜方法は一般選抜の前期日程に加えて4種類の特別選抜を用意し、多様な人材の受け入れを目指す。一般選抜前期日程では高い基礎学力と論理的な思考力・判断力・表現力を有する学生を求め、特別選抜の学校推薦型選抜では、前述の基礎学力等に加えて、獣医学への関心と学習意欲が高く、世界の獣医療、獣医学において指導的役割を担う獣医師、獣医学研究者になろうという志を持つ学生を受け入れる。帰国生徒・私費外国人留学生特別選抜では海外での学習経験を有し、国際的な視野を持つ学生を受け入れる。特別選抜の産業動物獣医師地域枠では、卒業後に産業動物獣医師に就業する意志が明確な学生を求め、なお、外国人留学生特別選抜では日本留学試験の成績提出を課すことで、十分な日本語能力を有することを評価した上で選抜する。

9 取得可能な資格

獣医学部・獣医学科の教育課程を修了すれば、以下の資格が取得できる。

取得可能な資格	資格の種別	受験資格か、指定規則で定める科目の単位を修得すれば取得できる資格の別	資格取得を卒業要件としているか
獣医師	国家資格	受験資格	していない
食品衛生管理者	国家資格	卒業すれば取得できる	していない
食品衛生監視員	国家資格	卒業すれば取得できる	していない
家庭用品衛生監視員	国家資格	卒業すれば取得できる	していない
環境衛生監視員	国家資格	卒業すれば取得できる	していない
飼料製造管理者	国家資格	卒業すれば取得できる	していない
薬事監視員	国家資格	獣医師免許取得に伴う資格	していない
狂犬病予防員	国家資格	獣医師免許取得に伴う資格	していない
食鳥検査員	国家資格	獣医師免許取得に伴う資格	していない
種畜検査員	国家資格	獣医師免許取得に伴う資格	していない
と畜検査員	国家資格	獣医師免許取得に伴う資格	していない
家畜人工授精師	国家資格	獣医師免許を取得すれば家畜人工授精、家畜体内受精卵移植及び家畜体外受精卵移植の業務を行うことができる	していない

10 実習の具体的計画

10ーア 学外実習の目的

本学部・学科では、専門科目を講義として提供し、座学の中でその学問の学理を修めさせると共に、その学理に関わる技術や応用手法を、実習科目の履修を通して実技習得させる。これはディプロマポリシーで定めた「動物の医療・福祉の向上、動物および人の病気の予防や健康の増進、環境の健全化に貢献できる能力」を教授するためには必要不可欠なもので、実習を通して最終的に「実践力、高い倫理観と応用力、協調性」を学生へ付与する。さらに「国際的に活躍できる実践力」の付与のために、伴侶動物臨床、産業動物臨床の専門獣医師が実際に診療・家畜飼養を行う場に学生を派遣し、また一部病態獣医学、応用獣医学の教育科目では、食品衛生、家畜衛生の技術や手法が動物に対して実施されている現場を体験させ実技を習得させる。これは上述のモデル・コア・カリキュラムで求められているのみならず、

国際標準の獣医学教育でも求められている教育内容である。

10ーイ 実習先の確保の状況

1. 「小動物基礎臨床実習」では、大阪府立大学生命環境科学域獣医学類と連携協定を締結しており、大阪公立大学でも引き続き協定を締結する予定である大阪府動物愛護管理センターの協力のもと実施する。
2. 「畜産学実習」の肉用牛実習は京都大学大学院農学研究科附属牧場（実習受入実績有）で実施する。乳用牛、豚、緬山羊の実習は大阪府立農芸高校（教育連携協定締結先）で行い、馬実習はクレイン乗馬クラブ（大阪府羽曳野市）及び服部緑地乗馬センターで実施する。
3. 「獣医公衆衛生学実習」では、と畜場の見学と環境衛生科学検査の実習を行う。と畜場見学は大阪市中央卸売市場南港市場を、環境衛生科学検査の実習は大阪健康安全基盤研究所を、それぞれ実習先として実施する。大阪府立大学生命環境科学域獣医学類として、これら施設との教育連携は5年以上に及び、今後の受け入れについても了解を得ている。
4. 「食品衛生検査学実習」では食品化学検査の見学実習を、大阪健康安全基盤研究所を実習先として実施する。大阪府立大学生命環境科学域獣医学類として、この施設との教育連携は5年以上に及び、今後の受け入れについても了解を得ている。
5. 「生産獣医療学実習」の肉用牛実習は本学専任教員が神戸大学農学部附属食資源教育研究センター（文部科学省共同利用施設認定）に学生を引率して行う。乳用牛実習は本学専任教員が大阪府下の酪農家に学生を引率して実施する。豚実習は学生をあかばね動物クリニック（愛知県田原市）に派遣して実施する。あかばね動物クリニックは愛知県に立地するが、これは関西近隣では豚の郡管理を行う実習受け入れ先が希少であるためである。学生は引率教員とともに電車で現地へ移動し、準備した宿舎で宿泊して実習に参加する。
6. 「産業動物診療実習」の牛个体診療は本学専任教員が大阪府下の酪農家・畜産農家に学生を引率して実施するとともに、学生を兵庫県農業共済組合阪神家畜診療所（業務委託契約先）に派遣して実施する。馬个体診療は本学専任教員がクレイン乗馬クラブ（大阪府羽曳野市）及び服部緑地乗馬センターに引率して、専属獣医師（大和高原動物診療所）と連携して実施する。
7. 「伴侶動物獣医療実習 A~D」では基本的に本学附属動物病院である獣医臨床センターにおいて、センター受診動物を学修材料に用い主に2次診療の参加型実習を行う。また、大阪府動物愛護管理センターや地域の動物病院と連携の上で、1次診療を中心としたプログラムで参加型の臨床実習「伴侶動物獣医療実習 E」を行う予定である。加えて、選択科目の「伴侶動物獣医療実習 F」は、実習場所として、獣医臨床センターもしくは、大阪府動物愛護管理センターから学生が選択できる。受講者のうち、学外の動物愛護管

理センターを選択する学生は最大でも 5 名程度であると予測し、その定員は確保できている。

8. 「伴侶動物夜間・救急獣医療実習」は、大阪府下の開業獣医師と連携の上、本学の獣医臨床センター内で夜間診療外来を開設し（2022 年度予定）、実習させる。
9. 「と畜場実習」ではと畜場内に設置された食肉衛生検査所を実習受入先として実習を実施する。定員分の学生数を受け入れてもらえる実習先が確保されている。主に近畿地区近隣の食肉衛生検査所を実習先とするが、受け入れ人数制限等により、一部の学生は比較的近い近畿圏外の食肉衛生検査所を実習先とする。この場合は、公共交通手段あるいはチャーターバス等により実習前日までに実習先近くの都市で宿泊し、通常午前中に行われると畜検査に参加して技術を学修する計画である。
10. 「食品加工実習」では本学生活科学部食栄養学科の実習施設にて行う予定である。
11. 「獣医衛生学実習」では、家畜・家禽群の中で重要な動物感染症が発生した際の防疫処置に関する実習を、大阪府立農芸高等学校（本学と教育連携協定を締結）で実施する。
12. 「公務員獣医師インターンシップ」では、国内の各自治体において行う。定員分の学生数を受け入れてもらえる実習先が確保されている。
13. 「大動物野外診療実習」は、農業共済組合（NOSAI）が、全国の獣医学生に向けてオープンに実習参加を募集する「NOSAI 夏期臨床実習」に参加するもので、実習場所は、そこで提供されている全国各地にある NOSAI 診療所リストから希望場所を選ぶことになる。そのため、実習の受け入れ先は確保されている。
14. 食生産科学副専攻（4-イ、5 参照）に配置した実習科目については、神戸大学農学部附属食資源教育研究センター、日清オイリオグループ株式会社堺工場、一般財団法人日本食品分析センター、関西空港検疫所等を受け入れ先とする。これまで 5 年以上の教育連携実績を持ち、大学からの学生実習の受け入れについて支障はない。

上記実習の連携教育を行う外部機関へ学生が移動する際は、基本的に関西圏内での移動にはチャーターバスを利用する。また遠隔地への移動に際しては航空機や鉄道を利用することを基本としつつ、実習スケジュールを考慮しつつ、適切に宿泊施設の手配（ホテルや外部機関所有の宿泊施設）を行う。

この他の実習科目については、学内において実施する。

別添、資料 8-1「獣医学部実習施設一覧」参照

資料 8-2「実習施設等承諾書」参照

10-ウ 実習先との契約内容

大阪府動物愛護管理センター、大阪府家畜保健衛生所、大阪府立農芸高等学校とは、受入の承諾を得ている。兵庫県農業共済組合とは業務委託契約を結んで牛臨床実習を実施する。また、神戸大学農学部附属食資源教育研究センターは、文部科学省共同利用施設に認定され

ており、他大学の学生利用を推進している。また、今後大阪府立大学として連携協定を締結していた実習先と順次、新大学として、協定を締結することを予定している。個人情報の保護、事故防止については、実習開始に先立って各科目ごとに実習先と個別に内容確認を行い、両者で合意を形成した上で実習を開始する計画である。

10-1-エ 実習水準の確保の方策

全ての実習連携先は、委託する実習内容についての専門機関である。従って、求める実習内容に対して必要十分な水準を満たしている。実施に当たっては事前に実習担当教員が相手先機関・担当者と密な意見交換を行い、シラバス内容（実習の趣旨、目的、到達目標等）について情報共有を行って、水準の維持・確保に努める。同じ科目でありながら複数施設を利用して授業を行う場合も、シラバス内容に基づいて内容の標準化を行った上で、各施設担当者と十分に情報共有を行い、標準化された授業を実施する。また、実習終了後は、受入先の実習担当者及び引率教員双方により、平常点（実習への取り組み姿勢、質問発声の有無等）、レポート等により成績評価と単位認定を行い大学教育としてふさわしい実習水準が適切に確保される体制を担保する。

10-1-オ 実習先との連携体制

全ての学外実習については、獣医学科長が責任者、各実習科目担当教員が窓口として実習相手先に対して対応する。必要な場合は実習受入承諾書等を交し、実習の実施に関する必要情報を共有する。

10-1-カ 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

実習相手先が牧場、小動物飼育施設など、家畜や伴侶動物等の飼育施設である場合は、受入先への感染症の持ち込みに関する注意喚起を事前に学生に対して行う。また、学生が人獣共通感染症に感染する危険性については、そのリスクについて事前に実習担当教員が相手先機関と意見交換を行い、必要に応じて情報を学生へ周知することによってリスクの低減を図る。

全ての学外実習の実施に当たっては、学生が疾病・事故障害保険と自賠責保険への加入を完了するよう周知徹底し、加入を確認した上で実習参加を認める。

10-1-キ 事前・事後における指導計画

学生へは、入学時のカリキュラム・オリエンテーションの際に、本学部の教育理念、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに加え、授業計画や修学上の注意点について説明する。実習には外部機関を訪問するものが含まれ、その際に知り得た情報について守秘義務が生じること、SNS への情報公開について制限があることについては、特に厳しく指導する計画である。各実習を実施する前には、代表教員が学生に向けて実習の概要（日時、集合場

所、実習の内容、注意事項等) を説明する。実習終了後にレポートを提出させて評価の一部とするとともに、これを実習改善に向けた資料として活用する。

10ーク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

外部実習には必ず教員 1 名以上が引率同行する。担当教員が他に講義を担当する場合は想定されることから、外部実習の計画は実習開始時期の概ね 3 ヶ月前までに日程調整を行い、無理のない実施計画を整えた上で実施に臨む。実習において複数のグループに分かれることが想定される場合は、各グループに教員 1 名を配置して、実習が支障なく遂行できる環境を整える。実習機関が府外など遠隔地にあっても、公共交通機関あるいは自家用車等を用いて施設を教員が巡回し指導にあたる。また学生らには公共交通機関にて通うように指導し、遠隔地の実習施設の一部は宿泊可能となるように調整して便宜を図る。なお、実施期間中は、実習担当教員と大学事務部、獣医学科長が常時連絡の取れる体制を整える。事故等が発生した場合は、事前に作成した事故対応フローに従って関係者が対応する。

10ーケ 実習施設における指導者の配置計画

実習は、実習施設が必要と判断した場合、学生を複数グループに分けて行う。各グループに指導者 1 名を配置して、効果的に実習内容が教授されるよう配慮する。指導者は、実習内容に応じた専門知識と技術を有する者が任にあたる。指導者の選任にあたっては、本学の規定に従いその指導能力を審査した上で任用する。指導者には実習開始前にシラバス等を共有するとともに、獣医学モデル・コア・カリキュラムの到達目標等について情報共有し、必要な場合はモデル・コア・カリキュラム準拠教科書などを使用して説明会を開催し、教育上の倫理的配慮を含めて必要情報の共有を図る。

また、実習終了後は、関係者と意見交換する場を設けて、実習時に発生した問題点を共有するとともに、今後の実習内容の充実・改善に繋げるため提言を受けるよう努める。

10ーコ 成績評価体制及び単位認定方法

各実習とも実習先の指導者からの修了報告を受けて(口頭あるいは書面)実習を終了する。実習終了後に学生からレポートを、あらかじめ定めた提出期限内に提出させて、その内容により学習到達目標に達したかどうかを専任教員が確認する。引率教員は学生の実習への取り組み姿勢、質問発声の有無等を記録し、その内容も加味して成績評価と単位認定を行う。「公務員獣医師インターンシップ」など、専任教員が実習に同行しないものについては、選任された非常勤講師の指導のもとに実習が行われ、実習終了時に修了書を発行して、学生が学習目標を達成したことについて報告する体制を整える。その後、学生からレポートを提出させて成績評価と単位認定を行うことは、他の外部機関での実習と同様である。

1 1 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

インターンシップには、学生が主体的に実習先を探す「任意型」と本学部のカリキュラムとして提供する「単位型」がある。任意型インターンシップについては、これまで大阪府立大学生命環境科学域獣医学類が実施してきた外部機関との連携・交流を活用して、引き続き学生が主体的に参加する。学生がインターンシップ参加後にその内容を証明する書類と、研修レポート等、学習成果を定量化できる書類を提出することにより、単位申請することができる仕組みを用意する（学外特別実習、1単位）。

単位型のインターンシップについては、「公務員獣医師インターンシップ」と「海外インターンシップ」がある。「公務員獣医師インターンシップ」（1単位）は、地方自治体の協力のもと、公務員獣医師の職場を訪問、その業務の内容について実際にそこで働く獣医師から説明を受けると共に、一部実地に業務を体験し、将来の職業選択に活かす。

「海外インターンシップ」（1単位）は5年次で提供する選択科目である。1週間程度、海外の連携先（大学、日系企業、海外企業）を訪問して、海外機関講師より講義や説明を受けるとともに、現地で体験型の実習に参加する。このインターンシップを履修する学生は、「卒業研究」を履修する際に「獣医環境科学分野」（表1参照）に配置された研究室に配属されたもの（定員の三分の一程度）を想定している。獣医環境科学分野が担当する、食の安全、食料の安定供給、人獣共通感染症、家畜防疫などのテーマに沿った内容の海外インターンシップを経験できる。該当学生の半分程度が履修することを見越し、これまでの実績を考え合わせた上で、現在8名の受け入れ先を既に確保している（資料9「海外インターンシップ 受け入れ先一覧」参照。必要に応じて学術交流協定校を候補として、新たな受け入れ先を確保する計画である。事前に現地で教育に携わる指導者と綿密に打ち合わせ、学修内容と到達目標について情報共有を行う。指導者はインターンシップ終了時に、学生の取り組み姿勢や到達度を評価した書面を提出し、学生は帰国後にレポートを担当の専任教員に提出する。最終的な学生の成績評価は、指導者と担当教員の両方の評価を持って行う。

1 1ーア 実習先の確保の状況・連携体制

任意型インターンシップについては、これまで大阪府立大学生命環境科学域獣医学類が実施してきた外部機関との連携・交流を引き続き活用して、情報を学生と共有しつつ、学生の参加を促す。これまで大阪府家畜保健衛生所、大阪府動物愛護管理センター、天王寺動物公園、海遊館等と連携協定を締結し、多くの学生を派遣した実績を有する。

「公務員獣医師インターンシップ」については、近畿圏の地方自治体との連携を図り、本学学生へのインターンシップ受け入れ枠を確保する。

「海外インターンシップ」については、本学教員が教育あるいは研究を目的として交流

を持つ機関や、大阪府立大学生命環境科学域獣医学類において、学術交流協定校として、協力が得られていた大学において実施する。「食生産科学副専攻」プログラムの中で、多くの獣医学生を10年近くにわたり派遣してきた実績を有する。この中ではタイやオーストラリアの獣医学生と英語で、様々なテーマについて意見交換する内容が含まれている。この海外とのネットワークを基に、必要により内容をさらに充実・拡充させて、体験型の学習機会を提供する。

資料9「海外インターンシップ 受け入れ先一覧」参照

1 1 ーイ 実習先との連携体制

任意型インターンシップにおいては学生が個別に実習先に受け入れを打診し、実習先の求めに応じて必要な手続きをとった上で実習に参加する。実習先は手続きにあたり学生の学年アドバイザー（学年担任教員）や研究指導教員（4年次後期以降に研究室に配属になった後の場合）の推薦を求める。これについては学部に配置された教務担当職員が適切に実習先と情報交換を行い、学年アドバイザーあるいは指導教員と連絡を取り合いながら、必要な手続きを漏れなく完了した上で学生を実習先へ派遣する。なお上記のプロセスを経ることで、傷害保険や自賠責保険など、学生にとって重要となるリスク管理の手続きについて確認することができる。

公務員獣医師インターンシップにおいては本科目担当教員等が責任を持って実習先と受け入れ日程調整を行い、必要に応じて実習先までの交通手段、現地での宿舎、帰路の交通手段などの手配を行い、実習先へ学生を届けまた帰宅させる手段を担保する。その上で、その情報を実習先と共有し、往路復路における問題の発生に備える。

海外インターンシップにおいては、各実習受け入れ施設に1名から2名の連絡窓口係を選任し、それぞれの派遣施設と連絡をとる教員を定めておくことで、円滑な情報交換が可能となる体制を整える。状況により連絡窓口係や担当教員が任を離れる場合には、事前に後任者を定めて引き継ぎを徹底し、連携関係が途切れなく維持されるよう最大限の努力を行う。また実習施設を訪問した際には、現地での受け入れ指導者や担当窓口係と意見交換する場を設けて、次年度の受け入れについて確認するとともに、連携の継続性に問題が発生しないか常に情報交換に努める。万が一連携の維持が難しくなる状況が発生した場合は、代替え施設の紹介を直接あるいは適切な機関（大使館や関連事業所等）から受けることができるよう、事前に打ち合わせを行う計画である。

1 1 ーウ 成績評価体制及び単位認定方法

任意型のインターンシップについては、学生が主体的に探した実習先のインターンシップに参加後、その内容を証明する書類と、研修レポート等、学習成果を定量化できる書類を提出することにより、単位認定する（学外特別実習、1単位）。

「海外インターンシップ」については、インターンシップに教員が同行し、学生の研修への参加状況を把握、また学生と討論を行い学修成果について評価する時間も設け、成績評価に利用する。1日6時間程度の現地での研修時間に加えて討論や予習・復習に当てる時間を確保し、これを5日間実施して、現地での講義、実習、見学への積極的な参加状況とインターンシップ終了後のレポートによって到達目標の達成度を評価して単位を認定する。

「公務員獣医師インターンシップ」については、派遣先の担当職員（地方自治体の公務員獣医師が中心）が、学生の研修への参加意欲、研修内容の理解度・達成度を材料として成績評価を行う。講義の目的、達成目標など評価に必要な内容については、事前にこの科目を担当する学内教員と非常勤講師との間で十分に意見交換と情報共有を行っておく。到達目標の項目6つのうち、最低3つを達成し、業務現場で実地にインターンシップに参加し、受け入れ機関が発行する修了証を受領していることが成績評価の最低条件となる。実習への取り組み姿勢（50%）と提出されたレポート（50%）によって成績を評価するが、評価Cを得るためには、定められたインターンシップ日程の7割以上に参加し、積極的な取り組み姿勢が認められることと、レポートの内容によって各達成目標の6割以上が習得されたことが認められることが必要である。

1 1ーエ その他特記事項

インターンシップへの派遣にあたっては、学生へは傷害保険のほか、自賠責保険への加入を義務とするほか、緊急時の連絡網を整備して、健康上の問題や有事に対応できる状況を整備する。

1 2 昼夜開講制を実施する場合の具体的計画

該当なし

1 3 編入学定員を設定する場合の具体的計画

該当なし

1 4 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

大阪公立大学では、2025年度（令和7年度）に森之宮キャンパスを開設し、全学共通教育としての基幹教育を実施する。

獣医学部獣医学科においては、1年次に基幹教育を実施し、収容定員は40名である。また、2～6年次の専門教育をりんくうキャンパスで実施し、収容定員は200名である。いずれの教育も十分な収容定員を確保する。

森之宮キャンパスにおいては、国際基幹教育機構所属の教員 83 人を配置し基幹教育を実施する。また、1 年次の後期に 1 日のみ、りんくうキャンパスにて専門教育を実施する。

学生に対しては、森之宮キャンパス・りんくうキャンパス共に図書館、自習スペース等を整備し、学生の授業時間外学習を各キャンパスで適切に行えるようにする。さらに、保健管理施設、学生相談室、履修相談、健康管理、厚生補導の体制を各キャンパスで整備するほか、大学ポータルサイトを開設する。

また、キャンパス移動後に単位未修得の授業科目を履修する者、他キャンパスの授業科目を自由科目として履修を希望する者に対しては、基本的には面接により授業を実施するため、学生が授業実施キャンパスに移動することを原則とするが、履修希望者の人数や履修登録状況に応じて、教員が学生の所属するキャンパスに移動して授業を行うことや、メディアを利用して授業を実施するなど、学生の履修に配慮するものとする。

別添、資料 10「獣医学部キャンパスの遷移」参照

1 5 社会人を対象とした大学教育の一部を校舎以外の場所（サテライトキャンパス）で実施する場合の具体的計画

該当なし

1 6 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学では、平常時の面接による授業の実施を原則とするが、大学設置基準第 25 条第 2 項および本学の学則の規定に基づき、多様なメディアを高度に利用し、同時に双方向に行うことができる遠隔授業を実施できることとすることから、カリキュラムの改善等により、多様なメディアを利用した授業が必要となった場合は、文部科学省の告示の要件等に基づき、実施するものとする。

1 7 通信教育を実施する場合の具体的計画

該当なし

1 8 管理運営

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

1 9 自己点検・評価

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

2 0 情報の公表

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

2 1 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

国際基幹教育機構の協力のもとに、大阪府立大学生命環境科学域獣医学類のファカルティ・デベロップメント(FD)をさらに推し進めるとともに、授業の改善を目的としたFD講演会、FD研修会の実施、外部評価委員による評価などにより教員の資質の維持向上に努める。学部内の関係教員によりFD委員会を組織し、教員が行う教育に関して定期的な評価と向上の促進を実施する仕組みを導入する。

2 2 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

2 2ーア 教育課程内の取組について

本獣医学科では、4年次前半までは「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム」を順守した教育カリキュラムを採用する。その後、卒業年次までにアドバンス教育として、「産業動物診療実習」や「伴侶動物・夜間救急獣医療実習」などの「欧州認証」に対応した実践教育（実習等）を中心に配備する。加えて獣医学研究者養成を目指した3年間の基盤的「研究カリキュラム」も、4年次以降に配置する。

獣医学教育モデル・コア・カリキュラムは、「日本の多様な獣医師職域に対応するとともに世界標準となる獣医学教育を実践する」ことをキャッチフレーズとして2018年に改定された。本獣医学科の必修専門科目は、本モデル・コア・カリキュラムを順守した内容となっており、必然的に多様な獣医師職域へ対応する教育内容が担保される形となっている。またモデル・コア・カリキュラムの習得を前提として、アドバンス教育の習得へ進むことになるが、ここでは、欧州認証に則った教育プログラムを必修科目として展開し、OIE（国際獣疫事務局）の「Day one competency」の理念に対応した実践力の付与を目指している。

「Day one competency」とは、大学における高度獣医学教育を修了した学生は、卒後1日目から職業獣医師としての基礎的実践能力を保持していなければならないという理念であ

る。その理念を範とした本獣医学科の教育カリキュラムでは、4年次後期以降に必修科目として「と畜場実習」、「公務員獣医師インターンシップ」、「生産獣医療学実習」、「伴侶動物獣医療実習 A～E」などを配置している。

これらにより、学生のキャリア意識と能力が醸成されるものと考えている。

獣医師の職域の1つに「生命科学研究者」が挙げられる。獣医学教育機関により養成された質の高い生命科学研究者は、将来にわたり質の高い獣医師養成に関与することが期待されるが、同時に彼らが異分野・関連分野の研究に参入することで、日本の科学技術全体の発展が期待される。

本獣医学科ではこのような理念に基づき、「獣医学概論」、「獣医学体験演習」などの科目により研究者が獣医師にとって重要な職業選択肢であることを学ばせ、4年次からの研究室配属後は、3年間にわたり基礎的な研究能力付与のため「卒業研究」や「獣医学演習」という研究能力開発のための教育プログラムを配置している。

(資料 11_「獣医学科のキャリア形成支援専門科目配置状況」)

2 2-1イ 教育課程外の取組について

全学的な就職支援の仕組みとして学生課キャリア支援室が設けられ、各部署学生の就職支援活動を、必要な場合はテレビ電話も利用しつつ支援する。個別対応として自己分析、履歴書・エントリーシート作成、面接対策、内定先との対応等に対する支援を行うとともに、性格検査、職業興味検査なども無料で提供、また個別・合同企業説明会の開催などを通じて、就職支援体制を構築する。

この他、全学的な取り組みは、大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照を参照。

2 2-1ウ 適切な体制の整備について

全学的な取り組みとして、各学年に学生アドバイザーと呼ばれる学年担任(常勤教員)を配置し、就業上あるいは生活面でのあらゆる問題について学生が相談できる窓口機能を持たせている。学年担任は、学生が6年生になった際には就職担当として、各種キャリアパスの相談に応じるとともに、学部から寄せられる専門職就職に関する情報の周知、進学希望者に対する助言など、親身な活動支援を行う。

本学は、関西圏で唯一の獣医学教育機関であることから、関西圏の小動物開業獣医療診療所、地方自治体、全国の製薬関連企業等から関係者が毎年来学し、就職説明会が開催される。獣医学科では学科事務を担当する職員が、これら説明の取りまとめと開催通知の配信などを担当し、学生はこれを機会として適性の合う職場を選択し、就職に関する情報を得ることが可能である。

大阪公立大学 獣医学部

設置の趣旨等を記載した書類 添付資料

資料 1	獣医師の需給に関する検討会による需給見通しの推計値 (2020～2040 年)	P.2
資料 2	要望書(第 97 回近畿地区連合獣医師大会 提出議案)	P.3
資料 3	大阪府立大学獣医学類卒業生進路一覧(2016 年から 2020 年度卒業生)	P.4
資料 4	獣医学部設立に向けた公立大学法人大阪と大阪府との連携に関する協定書	P.5
資料 5	獣医学部獣医学科カリキュラムマップ	P.6
資料 6	定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として雇用する場合の取り扱いについて	P.8
資料 7	履修モデル (獣医学部)	P.9
資料 8-1	獣医学部実習施設一覧	P.15
資料 8-2	実習施設等承諾書	P.17
資料 9	海外インターンシップ 受け入れ先一覧	P.46
資料 10	獣医学部キャンパスの遷移	P.47
資料 11	獣医学科のキャリア形成支援専門科目配置状況	P.48

獣医師の需給に関する検討会による需給見通しの推計値(2020～2040年)

(現状値推計に、小動物診療の受診回数の増加、診療効率化を加味した推計)

シナリオ			産業動物	小動物	全体	試算値の採用状況	
						農林水産省 報告書	日本獣医師会 意見
上 限	受診回数 20%増加	(上位推計)	2020年:500人不足 2040年:900人不足	2020年:2,300人不足 2040年:1,000人不足	2020年:3,300人不足 2040年:3,500人不足	○	×
		診療効率化10%勘案		2020年:600人不足 2040年:600人超過	2020年:1,600人不足 2040年:1,900人不足	×	×
	受診回数 10%増加	(中位推計)		2020年:600人不足 2040年:600人超過	2020年:1,600人不足 2040年:1,900人不足	○	○
		診療効率化10%勘案		2020年:1,000人超過 2040年:2,300人超過	2020年:ほぼ均衡 2040年:200人不足	×	×
標準(現状値推計)				2020年:1,000人超過 2040年:2,300人超過	2020年:ほぼ均衡 2040年:200人不足	◎	◎
下 限	診療効率化 10%増加	受診回数20%増加勘案		2020年:600人不足 2040年:600人超過	2020年:1,600人不足 2040年:1,900人不足	○	×
		受診回数10%増加勘案		2020年:1,000人超過 2040年:2,300人超過	2020年:ほぼ均衡 2040年:200人不足	○	×
	現状値で推移	2020年:2,500人超過 2040年:3,700人超過		2020年:1,300人超過 2040年:1,000人超過	○	○	

注) 産業動物診療に関する推計は、家畜飼養頭羽数に政策目標を勘案した推計値。政策目標を勘案しない場合は、200人必要獣医師数が減少する。

第 9 7 回 近畿地区連合獣医師大会 提出議案

獣医師会名	公益社団法人大阪府獣医師会
提出議案名	大阪府立大学における獣医学教育の充実と 獣医学部および獣医学研究科の設置について
提出議案 内容	<p>口蹄疫、豚コレラおよび高病原性鳥インフルエンザの発生などにより、獣医師の社会的責務は益々大きくなると共に、国内だけに留まらず国際的な連携を構築して課題対応することが求められています。これに応じて日本の獣医学教育も、国際水準の実践力を持つ人材を輩出することが強く求められるようになり、全国獣医系大学協議会は現行の獣医学モデル・コアカリキュラムを改訂し、国際標準に合わせた内容へと大きく変更すべく作業を進めています。</p> <p>大阪府立大学では、「動物に対する先端医療」と「人間と動物の共生」に関わる獣医学教育・研究を通して、近畿圏における動物科学分野の拠点としての展開を図ってきました。大学が時代に適応した「教育・研究・社会貢献」という三大使命を果たすには、獣医学が網羅する学問領域全般を過不足無く網羅する適正な教員配置が必要です。しかし大阪府立大学ではここ数年、経営の観点から教員数の削減が進められた結果、現在の専任教員数は「獣医学教育第三者評価」の基準（入学定員 40 名に対して専任教員 69 名）を十分満たさない状況に陥っています。またその教育組織（獣医学類および獣医学専攻）も、生命環境科学域あるいは生命環境科学研究科という部局に含まれる一構成単位にすぎない、恒常的な部局代表権を有しない状況に長く置かれてきました。</p> <p>2019 年 4 月、大阪府立大学と大阪市立大学は法人統合し、1 法人 2 大学体制となって、さらなる大学経営および教育の効率化が検討されています。加えて 2022 年 4 月に予定されている 2 大学統合後は、獣医学部および獣医学研究科の新設による部局化が検討されることになりました。このような大学環境の変化を受けて、大阪府立大学獣医学類・獣医学専攻は、近畿地区からグローバルに活躍できる国際獣医師を輩出することを 1 つの目標として、欧州認証取得可能な獣医学教育研究組織へと改組することを決定しました。近畿圏に唯一存在する本教育研究組織が、国際的に通用する獣医学教育を確立し、国際社会の要請に応える人材を輩出することは、近畿地区の獣医学の発展と獣医事サービスの充実に資するものとして、最善の方向性であると確信しています。</p> <p>よって近畿地区連合獣医師会は、大阪府立大学における獣医学教育・研究の充実・改革に向けた教員増を支援し、獣医学部および獣医学研究科の設置が実現するよう、また国際水準の教育体制が確立されるよう、国・大阪府及び関係団体の協力を重ねて要望します。</p>

資料3

大阪府立大学獣医学類卒業生進路一覧（2016年から2020年度卒業生）

年度	国家公務員	地方公務員	企業等	農業協同組合等 (産業動物系)	小動物診療	進学	その他	計
2016	0	3	6	5	18	5	2	39
2017	2	2	5	4	23	3	7	46
2018	1	14	5	1	21	2	1	45
2019	0	6	5	4	25	4	2	46
2020	0	5	8	3	18	7	2	43

獣医学部設立に向けた公立大学法人大阪と大阪府との連携に関する協定書

公立大学法人大阪（以下「甲」という。）と大阪府（以下「乙」という。）は、大阪公立大学に設立予定である獣医学部の教育充実と地域貢献を推進するため、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 大阪公立大学は、乙との緊密な連携の下、従来の地域連携の枠を超えて新大学の専門知を結集して都市問題の解決や産業競争力の強化に貢献するしくみをつくることとしている。課題先進地域の大阪では、動物愛護畜産衛生行政領域も例外ではなく様々な課題を抱えており、獣医学部設立を見据え、設立団体からの要請に、一層、積極的かつ機動的に対応することが期待されている。

また、甲は獣医学部設立へ向けて、EA EVE認証で求められる実践的教育の充実を図るため、資格養成に係る臨床実習を含む学外実習について乙の関係機関との連携が益々重要となっている。

そのため、甲乙が所有する資源の活用について協力・連携を図り、相互の一層の進展と地域社会の発展に資することを目的とする。

（連携事業）

第2条 甲乙が連携、協力して行う事業は、次のとおりとする。

- (1) 動物愛護畜産衛生行政が抱える地域の課題解決に関すること。
- (2) 獣医学教育における資格養成に係る臨床実習を含む学外実習に関すること。
- (3) その他、甲乙が必要と認めること。

（協議）

第3条 前条に掲げる項目に関する取組みについて協議するため、必要に応じ関係者による会議を開催する。

（期間）

第4条 本協定は、締結の日から効力を生ずるものとし、甲乙のいずれかから協定終了の申し入れがない限り継続するものとする。

（その他）

第5条 本協定書の解釈に疑義が生じた場合及びこの協定に定めのない事項については、両機関が協議して定める。

本協定締結の証として、本書2通を作成し、双方各1通を保有する。

令和2年10月16日

甲 公立大学法人大阪
理事長

西澤 良記



乙 大阪府
大阪府知事

吉村 洋文

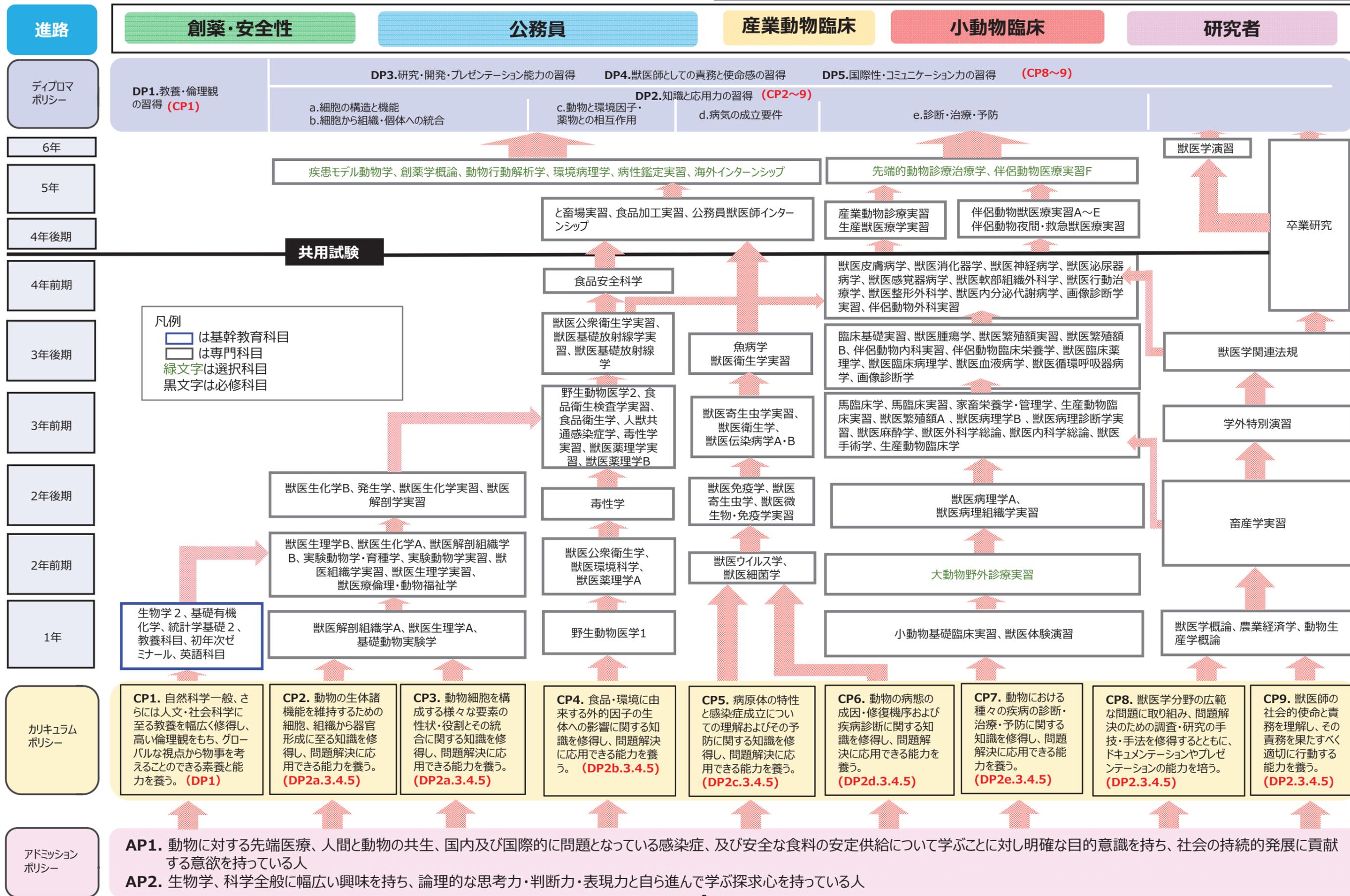


【設置の趣旨及び必要性】

- 近年、地球規模の気候変動、国境を超えた有害化学物質の拡散、人口の増加と盛んな産業活動などが環境に大きな負荷をかけている中、食料の安定供給、人獣共通感染症の予防、動物と人の共生、食品・医薬品の安全性確保などの、人類の生活基盤に関わる重要な問題の解決に責任を果たすことが求められている
- また少子化も進み「小さな世帯」が増加することも相まって、人々に安らぎ・癒しを与える伴侶動物の社会的立場は、今後ますます重要になると予想される。
- 社会情勢、地政学的状況からも、学際的・国際的な地域特性を活かしつつ、世界標準に対応した教育を通して実践力のある獣医師を育成することを目的とした「獣医学部」を設置する必要がある。

【養成する人材像】

- 本学部では、動物と人、環境が共存・共栄できる社会の構築を理想と考え、動物の医療・福祉の向上、動物および人の病気の予防や健康の増進、環境の健全化に貢献できる能力を、国際標準の教育手法に準拠して教授する。さらに、日々発展する生命科学の新しい知見と技術を追求しつつ新たな科学技術を開拓できる人材養成を目的として、研究開発能力とプレゼンテーション能力を教授する。これらにより、国際的に活躍できる実践力を有し、高い倫理観と応用力、協調性を備え持った、広く生命科学の発展に資する問題解決型の人材を養成する。



獣医学部獣医学科のカリキュラムマップ（食生産科学副専攻）

【設置の趣旨及び必要性】

- 近年、地球規模の気候変動、国境を超えた有害化学物質の拡散、人口の増加と盛んな産業活動などが環境に大きな負荷をかけている中、食料の安定供給、人獣共通感染症の予防、動物と人の共生、食品・医薬品の安全性確保などの、人類の生活基盤に関わる重要な問題の解決に責任を果たすことが求められている
- また少子化も進み「小さな世帯」が増加することも相まって、人々に安らぎ・癒しを与える伴侶動物の社会的立場は、今後ますます重要になると予想される。
- 社会情勢、地政学的状況からも、学際的・国際的な地域特性を活かしつつ、世界標準に対応した教育を通して実践力のある獣医師を育成することを目的とした「獣医学部」を設置する必要がある。

【養成する人材像】

○本学部では、動物と人、環境が共存・共栄できる社会の構築を理想と考え、動物の医療・福祉の向上、動物および人の病気の予防や健康の増進、環境の健全化に貢献できる能力を、国際標準の教育手法に準拠して教授する。さらに、日々発展する生命科学の新しい知見と技術を追求しつつ新たな科学技術を開拓できる人材養成を目的として、研究開発能力とプレゼンテーション能力を教授する。加えて大都市で問題となる食の安全について、植物および動物由来の食品原材料全般に詳しく、食品の生産から流通、加工、消費に至るまでの全過程における課題を解決できる能力を付与する。これらにより、国際的に活躍できる実践力を有し、高い倫理観と応用力、協調性を備え持った、広く生命科学の発展と社会貢献に資する問題解決型の人材を養成する。

進路

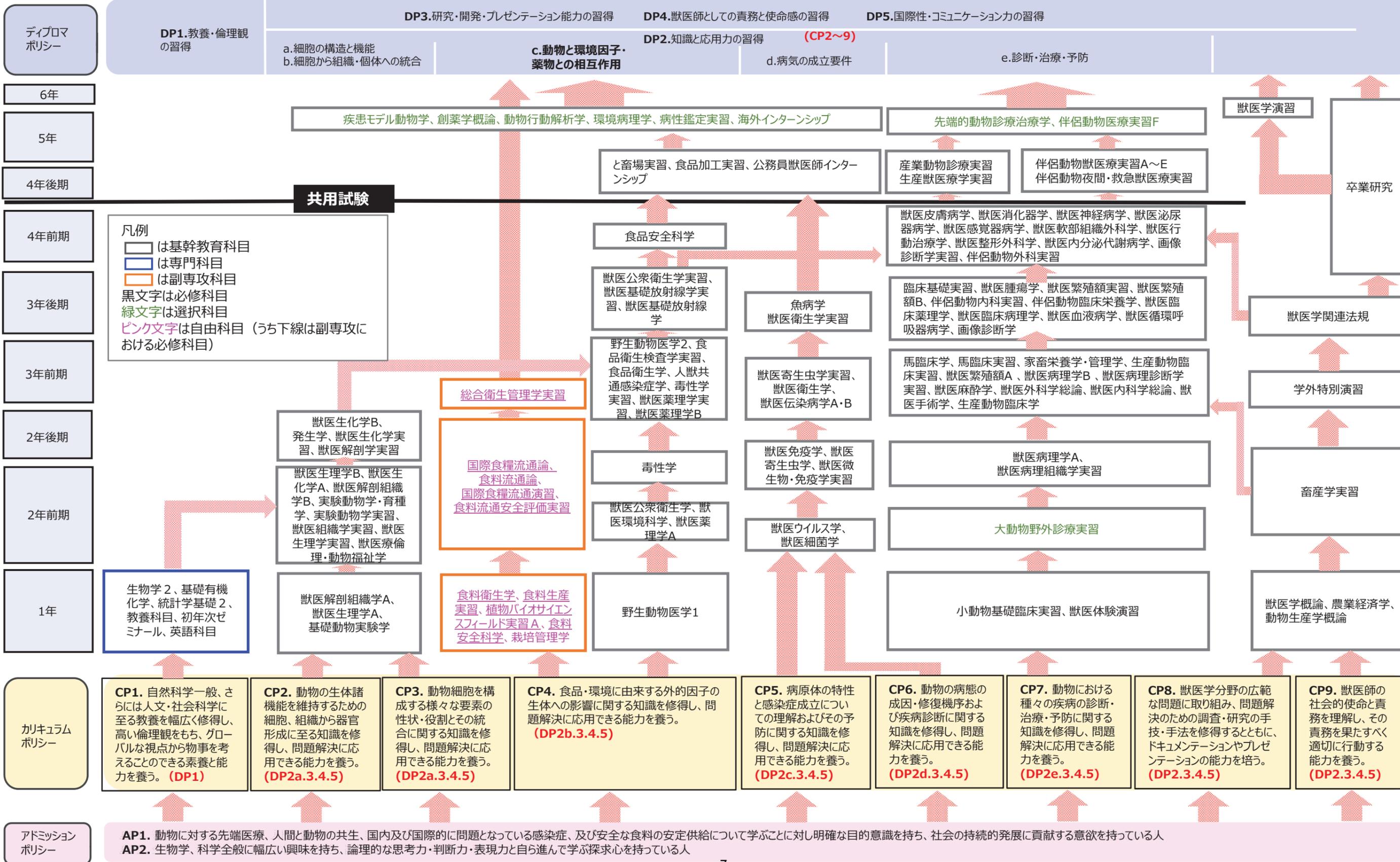
創薬・安全性

公務員

産業動物臨床

小動物臨床

研究者



定年退職する教員を特例として新大学で勤務する教員として
雇用する場合の取り扱いについて

令和2年8月26日 理事長決裁

(趣旨)

- 1 この要項は、特例として、新大学の完成年度までに定年退職する教員を雇用する場合の取り扱いについて定める。

(適用対象)

- 2 この要項の適用対象者（以下「本要項適用者」という。）は、新大学の完成年度までに定年退職する教員で、担当する授業科目の特性等から同一専門分野の後任を直ちに確保することが困難である等理事長が特に必要と認める者とする。

(定年退職後雇用する場合の身分等)

- 3 本要項適用者を雇用する場合の身分は特任教員とし、当該本要項適用者が担当する学部・学域・研究科において教育研究を行う。

(任期)

- 4 本要項適用者の任期は、当該本要項適用者が担当する学部・学域・研究科の完成年度までとする。

(その他)

- 5 本要項適用者の任期以外の事項については、本要項の適用を受けない特任教員と同様とする。

附 則

この要項は、令和2年8月26日から施行する。

履修モデル (獣医学部)

別紙

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
基礎 教育科目 (基礎 教育科目を 除く)	初年次ゼミナール	2	University English 3A	1										
	哲学入門	2	University English 3B	1										
	地球学への招待	2												
	環境・生命・倫理	2												
	英語で学ぶ日本文化	2												
	心と脳	2												
	ヨーロッパの多言語社会	2												
	プレゼンテーション技法	2												
	University English 1A	1												
	University English 1B	1												
	University English 2A	1												
	University English 2B	1												
	フランス語入門 1	1												
	フランス語入門 2	1												
健康スポーツ科学概論	2													
健康スポーツ科学実習	1													
情報リテラシー	2													
17科目	27	2科目	2	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0	29	
基礎 基礎科目 (基礎 教育科目)	生物学2	2												
	基礎有機化学B	2												
	統計学基礎2	2												
	データベースと情報検索	2												
4科目	8	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	8		
専門 科目	獣医学概論	2	獣医解剖組織学B	2	獣医学関連法規	1	食品安全科学	1	と畜場実習	1	獣医学演習	1		
	小動物基礎臨床実習	1	実験動物学・遺伝育種学	1	獣医病理学B	2	獣医皮膚病学	1	公務員獣医師インターンシップ	1	卒業研究	12		
	獣医解剖組織学A	2	獣医生化学A	2	獣医薬理学B	1	獣医消化器病学	2	産業動物診療実習	4				
	基礎実験動物学	1	獣医生化学B	1	人と共通感染症学	2	獣医神経病学	1	生産獣医療実習	2				
	獣医生理学A	2	発生学	1	食品衛生学	2	獣医泌尿器病学	2	伴侶動物獣医療実習A	4				
	野生動物医学1	1	獣医生理学B	2	野生動物医学2	2	獣医感覚器病学	1	伴侶動物獣医療実習B	4				
	動物生産学概論	1	獣医療倫理・動物福祉学	2	獣医伝染病学A	2	獣医軟部組織外科学	1	伴侶動物獣医療実習C	2				
	農業経済学	1	獣医薬理学A	2	獣医伝染病学B	2	獣医整形外科学	2	伴侶動物獣医療実習D	2				
	獣医体験演習 (畜産学実習)	1	獣医病理学A	1	魚病学	1	獣医内分分泌代謝病学	2	伴侶動物獣医療実習E	4				
		—	獣医細菌学	2	獣医衛生学	2	動物行動治療学	1	伴侶動物夜間・救急獣医療実習 (卒業研究)	1				
			獣医ウイルス学	2	獣医基礎放射線学	1	画像診断学実習	2		—				
			獣医寄生虫学	2	獣医繁殖学A	2	伴侶動物外科実習	2						
			獣医免疫学	2	獣医繁殖学B	2	食品加工実習	1	動物行動解析学	1				
			毒性学	2	生産動物臨床学	3	臨床基礎実習	1	海外インターンシップ	1				
			獣医環境科学	1	家畜栄養学・管理学	1	生産動物臨床実習	2						
			獣医公衆衛生学	1	馬臨床学	2	(と畜場実習)	—						
			獣医解剖学実習	2	獣医腫瘍学	1	(公務員獣医師インターンシップ)	—						
			獣医組織学実習	2	獣医麻酔学	1	(産業動物診療実習)	—						
			実験動物学実習	1	獣医手術学	1	(生産獣医療実習)	—						
			獣医生化学実習	2	獣医血液病学	1	(伴侶動物獣医療実習A)	—						
			獣医生理学実習	2	画像診断学	2	(伴侶動物獣医療実習B)	—						
			獣医病理組織学実習	2	獣医循環呼吸器病学	2	(伴侶動物獣医療実習C)	—						
			獣医微生物・免疫学実習	3	獣医臨床薬理学	1	(伴侶動物獣医療実習D)	—						
			畜産学実習	2	獣医臨床病理学	1	(伴侶動物獣医療実習E)	—						
					伴侶動物臨床栄養学	1	(伴侶動物夜間・救急獣医療実習)	—						
					獣医外科学総論	1	(卒業研究)	—						
					獣医内科学総論	1								
					獣医病理診断学実習	1								
					獣医薬理学実習	2								
					獣医衛生学実習	2								
					獣医寄生虫学実習	2								
					獣医衛生学実習	2								
					毒性学実習	1								
					食品衛生検査学実習	1								
					獣医公衆衛生学実習	2								
					獣医基礎放射線学実習	1								
					馬臨床実習	1								
					獣医繁殖学実習	2								
					伴侶動物内科学実習	2								
					学外特別実習 (臨床基礎実習)	1								
					(生産動物臨床実習)	—								
	10科目	12	24科目	43	41科目	58	25科目	21	13科目	27	2科目	13	174	
	計	32科目	47	27科目	45	42科目	58	26科目	21	14科目	27	3科目	13	211

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（獣医学部・食生産科学副専攻）

別紙

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		単位 合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
基礎教育科目 (基礎教育科目を除く)	初年次ゼミナール	2	University English 3A	1										
	哲学入門	2	University English 3B	1										
	地球学への招待	2												
	環境・生命・倫理	2												
	英語で学ぶ日本文化	2												
	心と脳	2												
	ヨーロッパの多言語社会	2												
	プレゼンテーション技法	2												
	University English 1A	1												
	University English 1B	1												
	University English 2A	1												
	University English 2B	1												
	フランス語入門1	1												
	フランス語入門2	1												
	健康スポーツ科学概論	2												
	健康スポーツ科学実習	1												
	情報リテラシー	2												
17科目	27	2科目	2	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	29
基礎基礎科目 (基礎教育科目)	生物学2	2												
	基礎有機化学B	2												
	統計学基礎2	2												
	データベースと情報検索	2												
	4科目	8	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0	8
専門科目	獣医学概論	2	獣医学解剖組織学B	2	獣医学関連法規	2	食品安全科学	1	L農場実習	1	獣医学演習	1		
	小動物基礎臨床実習	1	実験動物学・遺伝育種学	1	獣医学病理学B	2	獣医皮膚病学	1	公務員獣医師インターンシップ	1	卒業研究	12		
	獣医学解剖組織学A	2	獣医生化学A	2	獣医学薬理学B	2	獣医消化器病学	2	産業動物診療実習	4				
	基礎実験動物学	1	獣医生化学B	1	人獣共通感染症学	1	獣医神経病学	2	生産獣医学実習	2				
	獣医生理学A	2	発牛学	1	食品衛生学	2	獣医泌尿器病学	1	伴侶動物獣医学実習A	4				
	野生動物医学1	1	獣医生理学B	2	野生動物医学2	2	獣医感覚器病学	4	伴侶動物獣医学実習B	4				
	動物生産学概論	1	獣医療養倫理・動物福祉学	2	獣医伝染病学A	2	獣医軟部組織外科学	1	伴侶動物獣医学実習C	2				
	農業経済学	1	獣医学薬理学A	2	獣医伝染病学B	2	獣医整形外科学	2	伴侶動物獣医学実習D	2				
	獣医体験演習 (畜産学実習)	1	獣医病理学A	2	魚病学	2	獣医内分泌代謝病学	2	伴侶動物獣医学実習E	4				
			獣医細菌学	2	獣医衛生学	2	動物行動治療学	1	伴侶動物獣医学実習F	1				
			獣医ウイルス学	2	獣医基礎放射線学	2	画像診断学実習	2	伴侶動物獣医学実習G (卒業研究)	1				
			獣医寄生虫学	2	獣医繁殖学A	2	伴侶動物外科実習	2						
			獣医免疫学	2	獣医繁殖学B	2	食品加工実習	1	動物行動解析学	1				
			毒性学	2	生産動物臨床学	3	臨床基礎実習	1	海外インターンシップ	1				
			獣医環境科学	1	家畜栄養学・管理学	1	生産動物臨床実習	2						
			獣医公衆衛生学	1	馬臨床学	2	(L農場実習)	—						
			獣医解剖学実習	2	獣医腫瘍学	1	(公務員獣医師インターンシップ)	—						
			獣医組織学実習	2	獣医麻酔学	1	(産業動物診療実習)	—						
			実験動物学実習	1	獣医手術学	1	(生産獣医学実習)	—						
			獣医生化学実習	2	獣医血液病学	2	(伴侶動物獣医学実習A)	—						
			獣医生理学実習	2	画像診断学	2	(伴侶動物獣医学実習B)	—						
			獣医病理組織学実習	2	獣医循環呼吸器病学	2	(伴侶動物獣医学実習C)	—						
			獣医微生物・免疫学実習	3	獣医臨床薬理学	1	(伴侶動物獣医学実習D)	—						
			畜産学実習	2	獣医臨床病理学	1	(伴侶動物獣医学実習E)	—						
					伴侶動物臨床栄養学	1	(伴侶動物獣医学実習F)	—						
					獣医外科学総論	1	(伴侶動物獣医学実習G)	—						
					獣医内科学総論	1	(卒業研究)	—						
					獣医病理診断学実習	1								
					獣医学薬理学実習	2								
					獣医寄生虫学実習	2								
					獣医衛生学実習	2								
					毒性学実習	1								
					食品衛生検査学実習	1								
					獣医公衆衛生学実習	2								
					獣医基礎放射線学実習	1								
					馬臨床実習	1								
					獣医繁殖学実習	2								
					伴侶動物内科学実習	2								
					学外特別実習 (臨床基礎実習)	1								
					(生産動物臨床実習)	—								
	10科目	12	24科目	43	41科目	58	25科目	21	13科目	27	2科目	13	174	
	副専攻科目	食品衛生科学	2	国際食料流通論	1	総合衛生管理学実習	1							
		食料生産実習	1	食料流通論	1									
		食料安全科学	2	国際食料流通演習	2									
		フィールド実習A	2	食料流通安全評価実習	1									
		栽培管理学	2											
	植物病理学	2												
6科目	11	4科目	5	1科目	1	0科目	0	0科目	0	0科目	0	17		
計	37科目	58	30科目	50	42科目	59	26科目	21	13科目	27	2科目	13	228	

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（獣医学部：職域・創薬－薬理・毒性関係）

別紙

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		単位合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
基幹教育科目 （基礎教育科目を除く）	初年次ゼミナール	2	University English 3A	1										
	哲学入門	2	University English 3B	1										
	地球学への招待	2												
	環境・生命・倫理	2												
	英語で学ぶ日本文化	2												
	心と脳	2												
	ヨーロッパの多言語社会	2												
	プレゼンテーション技法	2												
	University English 1A	1												
	University English 1B	1												
	University English 2A	1												
	University English 2B	1												
	フランス語入門1	1												
	フランス語入門2	1												
	健康スポーツ科学概論	2												
	健康スポーツ科学実習	1												
	情報リテラシー	2												
17科目	27	2科目	2	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0	29	
基幹基礎科目 （基礎教育科目）	生物学2	2												
	基礎有機化学B	2												
	統計学基礎2	2												
	データベースと情報検索	2												
4科目	8	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	8		
専門科目	獣医学概論	2	獣医学解剖組織学B	2	獣医学関連法規	1	食品安全科学	1	上畜場実習	1	獣医学演習	1		
	小動物基礎臨床実習	1	実験動物学・遺伝育種学	1	獣医病理学B	2	獣医皮膚病学	1	公務員獣医師インターンシップ	1	卒業研究	12		
	獣医学解剖組織学A	2	獣医生化学A	2	獣医薬理学B	1	獣医消化器病学	2	産業動物診療実習	4				
	基礎実験動物学	1	獣医生化学B	1	人獣共通感染症学	2	獣医神経病学	1	生産獣医学実習	2				
	獣医生理学A	2	産生物学	2	食品衛生学	2	獣医泌尿器病学	1	伴侶動物獣医学実習A	4				
	野生動物医学1	1	獣医生理学B	2	野生動物医学2	1	獣医感覚器病学	1	伴侶動物獣医学実習B	4				
	動物生産学概論	1	獣医薬理・動物福祉学	2	獣医伝染病学A	2	獣医軟部組織外科学	1	伴侶動物獣医学実習C	2				
	農業経済学	1	獣医薬理学A	2	獣医伝染病学B	2	獣医整形外科学	2	伴侶動物獣医学実習D	2				
	獣医体験演習 (畜産学実習)	1	獣医病理学A	2	魚病学	1	獣医内分泌代謝病学	2	伴侶動物獣医学実習E	4				
		—	獣医細菌学	2	獣医衛生学	2	動物行動治療学	1	伴侶動物夜間・救急獣医学実習 (卒業研究)	1				
			獣医ウイルス学	2	獣医基礎放射線学	2	画像診断学実習	2	—	—				
			獣医寄生虫学	2	獣医繁殖学A	2	伴侶動物外科実習	2						
			獣医免疫学	2	獣医繁殖学B	2	食品加工実習	1	創薬学概論	1				
			毒性学	2	生産動物臨床学	3	臨床基礎実習	1	疾患モデル動物学	1				
			獣医環境科学	1	家畜養育学・管理学	1	生産動物臨床実習 (上畜場実習)	2						
			獣医公衆衛生学	1	馬臨床学	1	—	—						
			獣医解剖学実習	2	獣医腫瘍学	1	(公務員獣医師インターンシップ)	—						
			獣医組織学実習	2	獣医麻酔学	1	(産業動物診療実習)	—						
			実験動物学実習	1	獣医手術学	1	(生産獣医学実習)	—						
			獣医生化学実習	2	獣医血液病学	1	(伴侶動物獣医学実習A)	—						
			獣医生理学実習	2	画像診断学	2	(伴侶動物獣医学実習B)	—						
			獣医病理組織学実習	2	獣医循環呼吸器病学	2	(伴侶動物獣医学実習C)	—						
			獣医微生物・免疫学実習	3	獣医臨床薬理学	1	(伴侶動物獣医学実習D)	—						
			畜産学実習	2	獣医臨床病理学	1	(伴侶動物獣医学実習E)	—						
					伴侶動物臨床栄養学	1	(伴侶動物夜間・救急獣医学実習)	—						
					獣医外科学総論	1	(卒業研究)	—						
					獣医内科学総論	1								
					獣医病理診断学実習	1								
					獣医薬理学実習	2								
					獣医寄生虫学実習	2								
					獣医衛生学実習	2								
					毒性学実習	1								
					食品衛生検査学実習	1								
					獣医公衆衛生学実習	2								
					獣医基礎放射線学実習	1								
					馬臨床学実習	1								
					獣医繁殖学実習	2								
					伴侶動物内科学実習	2								
					学外特別実習 (臨床基礎実習)	1								
					(生産動物臨床実習)	—								
	10科目	12	24科目	43	41科目	58	25科目	21	13科目	27	2科目	13	174	
	計	32科目	47	27科目	45	42科目	58	26科目	21	14科目	27	3科目	13	211

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（獣医学部：職域・産業動物関係）

別紙

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		単位合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
基幹教育科目 （基礎教育科目を除く）	初年次ゼミナール	2	University English 3A	1										
	哲学入門	2	University English 3B	1										
	地球学への招待	2												
	環境・生命・倫理	2												
	英語で学ぶ日本文化	2												
	心と脳	2												
	ヨーロッパの多言語社会	2												
	プレゼンテーション技法	2												
	University English 1A	1												
	University English 1B	1												
	University English 2A	1												
	University English 2B	1												
	フランス語入門1	1												
	フランス語入門2	1												
	健康スポーツ科学概論	2												
	健康スポーツ科学実習	1												
	情報リテラシー	2												
17科目	27	2科目	2	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0	29	
基幹基礎科目 （基礎教育科目）	生物学2	2												
	基礎有機化学B	2												
	統計学基礎2	2												
	データベースと情報検索	2												
4科目	8	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	8		
専門科目	獣医学概論	2	獣医学解剖組織学B	2	獣医学関連法規	1	食品安全科学	1	農場実習	1	獣医学演習	1		
	小動物基礎臨床実習	1	実験動物学・遺伝育種学	1	獣医病理学B	2	獣医皮膚病学	1	公務員獣医師インターンシップ	1	卒業研究	12		
	獣医学解剖組織学A	2	獣医生化学A	2	獣医薬理学B	1	獣医消化器病学	2	産業動物診療実習	4				
	基礎実験動物学	1	獣医生化学B	1	人獣共通感染症学	2	獣医神経病学	1	生産獣医学実習	2				
	獣医生理学A	2	産生物学	2	食品衛生学	2	獣医泌尿器病学	1	伴侶動物獣医学実習A	4				
	野生動物医学1	1	獣医生理学B	2	野生動物医学2	1	獣医感覚器病学	1	伴侶動物獣医学実習B	4				
	動物生産学概論	1	獣医薬倫理・動物福祉学	2	獣医伝染病学A	2	獣医軟部組織外科学	1	伴侶動物獣医学実習C	2				
	農業経済学	1	獣医薬理学A	2	獣医伝染病学B	2	獣医整形外科学	2	伴侶動物獣医学実習D	2				
	獣医体験演習 (畜産学実習)	1	獣医病理学A	2	魚病学	1	獣医内分泌代謝病学	2	伴侶動物獣医学実習E	4				
			獣医細菌学	2	獣医衛生学	2	動物行動治療学	1	伴侶動物夜間・救急獣医学実習 (卒業研究)	1				
			獣医ウイルス学	2	獣医基礎放射線学	1	画像診断学実習	2						
			獣医寄生虫学	2	獣医繁殖学A	2	伴侶動物外科実習	2						
			獣医免疫学	2	獣医繁殖学B	2	食品加工実習	1	病勢鑑定実習	1				
			毒性学	2	生産動物臨床学	3	臨床基礎実習	1	大動物野外科診療実習	1				
			獣医環境科学	1	家畜栄養学・管理学	1	生産動物臨床実習 (と畜場実習)	2						
			獣医公衆衛生学	1	馬臨床学	1								
			獣医解剖学実習	2	獣医腫瘍学	1	(公務員獣医師インターンシップ)	—						
			獣医組織学実習	2	獣医麻酔学	1	(産業動物診療実習)	—						
			実験動物学実習	1	獣医手術学	1	(生産獣医学実習)	—						
			獣医生化学実習	2	獣医血液病学	1	(伴侶動物獣医学実習A)	—						
			獣医生理学実習	2	画像診断学	2	(伴侶動物獣医学実習B)	—						
			獣医病理組織学実習	2	獣医循環呼吸器病学	2	(伴侶動物獣医学実習C)	—						
			獣医微生物・免疫学実習	3	獣医臨床薬理学	1	(伴侶動物獣医学実習D)	—						
			畜産学実習	2	獣医臨床病理学	1	(伴侶動物獣医学実習E)	—						
					伴侶動物臨床栄養学	1	(伴侶動物夜間・救急獣医学実習)	—						
					獣医外科学総論	1	(卒業研究)	—						
					獣医内科学総論	1								
					獣医病理診断学実習	1								
					獣医薬理学実習	2								
					獣医寄生虫学実習	2								
					獣医衛生学実習	2								
					毒性学実習	1								
					食品衛生検査学実習	1								
					獣医公衆衛生学実習	2								
					獣医基礎放射線学実習	1								
					馬臨床実習	1								
					獣医繁殖学実習	2								
					伴侶動物内科学実習	2								
					学外特別実習 (臨床基礎実習)	1								
					(生産動物臨床実習)	—								
		10科目	12	24科目	43	41科目	58	25科目	21	13科目	27	2科目	13	174
	計	32科目	47	27科目	45	42科目	58	26科目	21	14科目	27	3科目	13	211

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（獣医学部：職域・公衆衛生関係）

別紙

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		単位合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
基幹教育科目 （基礎教育科目を除く）	初年次ゼミナール	2	University English 3A	1										
	哲学入門	2	University English 3B	1										
	地球学への招待	2												
	環境・生命・倫理	2												
	英語で学ぶ日本文化	2												
	心と脳	2												
	ヨーロッパの多言語社会	2												
	プレゼンテーション技法	2												
	University English 1A	1												
	University English 1B	1												
	University English 2A	1												
	University English 2B	1												
	フランス語入門1	1												
	フランス語入門2	1												
	健康スポーツ科学概論	2												
	健康スポーツ科学実習	1												
	情報リテラシー	2												
17科目	27	2科目	2	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0	29	
基幹基礎科目 （基礎教育科目）	生物学2	2												
	基礎有機化学B	2												
	統計学基礎2	2												
	データベースと情報検索	2												
4科目	8	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	8		
専門科目	獣医学概論	2	獣医解剖組織学B	2	獣医学関連法規	1	食品安全科学	1	と畜場実習	1	獣医学演習	1		
	小動物基礎臨床実習	1	実験動物学・遺伝育種学	1	獣医病理学B	2	獣医皮膚病学	1	公務員獣医師インターンシップ	1	卒業研究	12		
	獣医解剖組織学A	2	獣医生化学A	2	獣医薬理学B	1	獣医消化器病学	2	産業動物診療実習	4				
	基礎実験動物学	1	獣医生化学B	1	人獣共通感染症学	2	獣医神経病学	1	生産獣医学実習	2				
	獣医生理学A	2	発生学	2	食品衛生学	2	獣医泌尿器病学	1	伴侶動物獣医学実習A	4				
	野生動物医学1	1	獣医生理学B	2	野生動物医学2	1	獣医感覚器病学	1	伴侶動物獣医学実習B	4				
	動物生産学概論	1	獣医薬理学・動物福祉学	2	獣医伝染病学A	2	獣医軟部組織外科学	1	伴侶動物獣医学実習C	2				
	農業経済学	1	獣医薬理学A	2	獣医伝染病学B	2	獣医整形外科学	2	伴侶動物獣医学実習D	2				
	獣医体験演習 (畜産学実習)	1	獣医病理学A	2	魚病学	1	獣医内分泌代謝病学	2	伴侶動物獣医学実習E	4				
			獣医細菌学	2	獣医衛生学	2	動物行動治療学	1	伴侶動物獣医学実習 (卒業研究)	1				
			獣医ウイルス学	2	獣医基礎放射線学	2	画像診断学実習	2						
			獣医寄生虫学	2	獣医繁殖学A	2	伴侶動物外科実習	2						
			獣医免疫学	2	獣医繁殖学B	2	食品加工実習	1	病勢鑑定実習	1				
			毒理学	2	生産動物臨床学	3	臨床基礎実習	1	海外インターンシップ	1				
			獣医環境科学	1	家畜栄養学・管理学	1	生産動物臨床実習 (と畜場実習)	2						
			獣医公衆衛生学	2	馬臨床学	2								
			獣医解剖学実習	2	獣医腫瘍学	1	(公務員獣医師インターンシップ)							
			獣医組織学実習	1	獣医麻酔学	1	(産業動物診療実習)							
			実験動物学実習	1	獣医手術学	1	(生産獣医学実習)							
			獣医生化学実習	2	獣医血液病学	1	(伴侶動物獣医学実習A)							
			獣医生理学実習	2	画像診断学	2	(伴侶動物獣医学実習B)							
			獣医病理組織学実習	2	獣医循環呼吸器病学	2	(伴侶動物獣医学実習C)							
			獣医微生物・免疫学実習	3	獣医臨床薬理学	1	(伴侶動物獣医学実習D)							
			畜産学実習	2	獣医臨床病理学	1	(伴侶動物獣医学実習E)							
					伴侶動物臨床栄養学	1	(伴侶動物夜間・救急獣医学実習)							
					獣医外科学総論	1	(卒業研究)							
					獣医内科学総論	1								
					獣医病理診断学実習	1								
					獣医薬理学実習	2								
					獣医寄生虫学実習	2								
					獣医衛生学実習	2								
					毒理学実習	1								
					食品衛生検査学実習	1								
					獣医公衆衛生学実習	2								
					獣医基礎放射線学実習	1								
					馬臨床実習	1								
					獣医繁殖学実習	2								
					伴侶動物内科学実習	2								
					学外特別実習 (臨床基礎実習)	1								
					(生産動物臨床実習)	1								
	10科目	12	24科目	43	41科目	58	25科目	21	13科目	27	2科目	13	174	
	計	32科目	47	27科目	45	42科目	58	26科目	21	14科目	27	3科目	13	211

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（獣医学部）・伴侶動物臨床関係

別紙

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		単位合計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
基礎教育科目（基礎教育科目を除く）	初年次ゼミナール	2	University English 3A	1										
	哲学入門	2	University English 3B	1										
	地球学への招待	2												
	環境・生命・倫理	2												
	英語で学ぶ日本文化	2												
	心と脳	2												
	ヨーロッパの多言語社会	2												
	プレゼンテーション技法	2												
	University English 1A	1												
	University English 1B	1												
	University English 2A	1												
	University English 2B	1												
	フランス語入門1	1												
	フランス語入門2	1												
	健康スポーツ科学概論	2												
	健康スポーツ科学実習	1												
	情報リテラシー	2												
17科目	27	2科目	2	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0	29	
基礎基礎科目（基礎教育科目）	生物学2	2												
	基礎有機化学B	2												
	統計学基礎2	2												
	データベースと情報検索	2												
4科目	8	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	8		
専門科目	獣医学概論	2	獣医解剖組織学B	2	獣医学関連法規	1	食品安全科学	1	と畜場実習	1	獣医学演習	1		
	小動物基礎臨床実習	1	実験動物学・遺伝育種学	1	獣医病理学B	2	獣医皮膚病学	1	公務員獣医師インターンシップ	1	卒業研究	12		
	獣医解剖組織学A	2	獣医生化学A	2	獣医薬理学B	1	獣医消化器病学	2	産業動物診療実習	4				
	基礎実験動物学	1	獣医生化学B	1	人獣共通感染症学	2	獣医神経病学	1	生産獣医学実習	2				
	獣医生理学A	2	養牛学	2	食品衛生学	2	獣医泌尿器病学	1	伴侶動物獣医学実習A	4				
	野生動物医学1	1	獣医生理学B	2	野生動物医学2	1	獣医感覚器病学	1	伴侶動物獣医学実習B	4				
	動物生産学概論	1	獣医療養倫理・動物福祉学	2	獣医伝染病学A	2	獣医軟部組織外科学	1	伴侶動物獣医学実習C	2				
	農業経済学	1	獣医薬理学A	2	獣医伝染病学B	2	獣医整形外科学	2	伴侶動物獣医学実習D	2				
	獣医体験演習（畜産学実習）	1	獣医病理学A	2	魚病学	1	獣医内分泌代謝病学	2	伴侶動物獣医学実習E	4				
		—	獣医細菌学	2	獣医衛生学	2	動物行動治療学	1	伴侶動物夜間・救急獣医学実習（卒業研究）	1				
			獣医ウイルス学	2	獣医基礎放射線学	1	画像診断学実習	2		—				
			獣医寄生虫学	2	獣医繁殖学A	2	伴侶動物外科実習	2						
			獣医免疫学	2	獣医繁殖学B	2	食品加工実習	1	伴侶動物獣医学実習F	1				
			毒性学	2	生産動物臨床学	3	臨床基礎実習	1	先端動物診断治療学総論	1				
			獣医環境科学	1	家畜栄養学・管理学	2	生産動物臨床実習（と畜場実習）	2						
			獣医公衆衛生学	1	馬臨床学	2		—						
			獣医解剖学実習	2	獣医腫瘍学	1	（公務員獣医師インターンシップ）	—						
			獣医組織学実習	2	獣医麻酔学	1	（産業動物診療実習）	—						
			実験動物学実習	1	獣医手術学	1	（生産獣医学実習）	—						
			獣医生化学実習	2	獣医血液病学	1	（伴侶動物獣医学実習A）	—						
			獣医生理学実習	2	画像診断学	2	（伴侶動物獣医学実習B）	—						
			獣医病理組織学実習	2	獣医循環呼吸器病学	2	（伴侶動物獣医学実習C）	—						
			獣医微生物・免疫学実習	3	獣医臨床薬理学	1	（伴侶動物獣医学実習D）	—						
			畜産学実習	2	獣医臨床病理学	1	（伴侶動物獣医学実習E）	—						
					伴侶動物臨床栄養学	1	（伴侶動物夜間・救急獣医学実習）	—						
					獣医内科学総論	1	（卒業研究）	—						
					獣医外科学総論	1								
					獣医病理診断学実習	1								
					獣医薬理学実習	2								
					獣医寄生虫学実習	2								
					獣医衛生学実習	2								
					毒性学実習	1								
					食品衛生検査学実習	1								
					獣医公衆衛生学実習	2								
					獣医基礎放射線学実習	1								
					馬臨床実習	1								
					獣医繁殖学実習	2								
					伴侶動物内科学実習	2								
					学外特別実習	1								
					（臨床基礎実習）	—								
					（生産動物臨床実習）	—								
	計	10科目	12	24科目	43	41科目	58	25科目	21	13科目	27	2科目	13	174
		32科目	47	27科目	45	42科目	58	26科目	21	14科目	27	3科目	13	211

（注）科目名欄の下線は必修科目を示す。

資料8-1 獣医学部 実習施設一覧

授業科目	配当年次	施設機関名	実習受入人数	実習先施設住所
小動物基礎臨床実習	1前	大阪府（大阪府動物愛護管理センター）	40	大阪府茨木市宮島1丁目1-1
畜産学実習	1・2通	株式会社乗馬クラブ クレイン 大阪・クレイン南大阪ホース ファーム	40	大阪府羽曳野市河原城991番地
畜産学実習	1・2通	服部緑地乗馬センター	40	豊中市服部緑地1番5号
畜産学実習	1・2通	大阪府立農芸高校	40	堺市美原区北余部595-1
畜産学実習	1・2通	京都大学大学院農学研究科附属 牧場	40	京都府船井郡京丹波町富田蒲生野144-1
獣医公衆衛生学実習	3後	地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所	40	大阪市東成区中道1丁目3-6 9
獣医公衆衛生学実習	3後	大阪市食肉衛生検査所	40	大阪府大阪市住之江区南港南5丁目2-4 8
食品衛生検査学実習	3前	地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所	40	大阪市東成区中道1丁目3-6 9
生産獣医療学実習	3後～4前	国立大学法人神戸大学大学院農 学研究科附属食資源教育研究セ ンター	40	兵庫県加西市鶉野町1348
生産獣医療学実習	3後～4前	有限会社あかばね動物クリニッ ク	40	愛知県田原市赤羽根町石添55番地
産業動物診療実習	4後～5前	兵庫県農業共済組合 臨床研修 課・阪神家畜診療所	40	神戸市中央区下山手通4-15-3
産業動物診療実習	4後～5前	株式会社乗馬クラブ クレイン 大阪・クレイン南大阪ホース ファーム	40	大阪府羽曳野市河原城991番地
産業動物診療実習	4後～5前	服部緑地乗馬センター	40	豊中市服部緑地1番5号
伴侶動物獣医学実習E	4後～5前	いぶきの動物病院	5	大阪府和泉市いぶき野2丁目9-1
伴侶動物獣医学実習E	4後～5前	さつき台動物病院	5	大阪府阪南市さつき台1丁目1-4
伴侶動物獣医学実習E	4後～5前	さとう動物病院	5	大阪府岸和田市土生町8丁目23-30
伴侶動物獣医学実習E	4後～5前	泉南動物病院	5	大阪府泉南郡熊取町紺屋2丁目1-3
伴侶動物獣医学実習E	4後～5前	たんぼぼ動物病院	5	大阪府貝塚市麻生中464-15
伴侶動物獣医学実習E	4後～5前	ときわ動物病院	5	大阪府岸和田市下松町3丁目4-1 ステーションプラザしもまつA
伴侶動物獣医学実習E	4後～5前	ひらの動物病院	5	大阪府泉大津市助松町3丁目2-40
伴侶動物獣医学実習E	4後～5前	まつおか動物病院	5	大阪府阪南市鳥取423-3
伴侶動物獣医学実習E	4後～5前	大阪府（大阪府動物愛護管理セ ンター）	40	大阪府茨木市宮島1丁目1-1

伴侶動物獣医学実習F	4後～5前	大阪府（大阪府動物愛護管理センター）	5	大阪府茨木市宮島1丁目1-1
と畜場実習	4後～5前	神戸市食肉衛生検査所	24	神戸市長田区苅藻通7-1-20
と畜場実習	4後～5前	和牛マスター食肉センター	5	兵庫県姫路市東郷町1451-5
と畜場実習	4後～5前	岡山県食肉衛生検査所	15	岡山県津山市国分寺120-1
獣医衛生学実習	3後	大阪府立農芸高等学校	40	堺市美原区北余部595-1
公務員獣医師インターンシップ	4後～5前	大阪府（食品衛生広域監視センター）	40	大阪府四條畷市江瀬美町1-16 四條畷保健所3階
公務員獣医師インターンシップ	4後～5前	大阪府（中央卸売市場食品衛生検査所）		大阪府茨木市宮島1丁目1-1
公務員獣医師インターンシップ	4後～5前	大阪府（健康医療部 食の安全推進課）		大阪府大阪市中央区大手前2丁目1
公務員獣医師インターンシップ	4後～5前	大阪府（大阪府羽曳野食肉衛生検査所）	40	大阪府羽曳野市向野2丁目4-14
公務員獣医師インターンシップ	4後～5前	大阪府（大阪府動物愛護管理センター）	40	大阪府茨木市宮島1丁目1-1
公務員獣医師インターンシップ	4後～5前	大阪府（環境農林水産部 動物愛護畜産課）	40	大阪府大阪市住之江区南港北1丁目14-16
公務員獣医師インターンシップ	4後～5前	大阪府（環境農林水産部 大阪府家畜保健衛生所）	40	大阪府泉佐野市りんくう往来北1-59

資料9

海外インターンシップ 受け入れ先一覧

国名	施設名	場所の詳細	受け入れ可能人数
タイ王国	Faculty of Veterinary Science, Chulalongkorn University (チュラロンコーン大学獣医学部)	Henri-Dunant Road, Pathumwan, Bangkok 10330, Thailand.	8
	Kasetsart University (カセサート大学獣医学部)	2XCF+MC Kamphaeng Saen, Kamphaeng Saen District, Nakhon Pathom, Thailand.	8
	UENO FINE CHEMICALS INDUSTRY (THAILAND), LTD. (タイ上野製薬バンブー工場)	No. 349 Bangpoo Industrial Estate, Moo 4, Sukhumvit Road, Phraek Sa Sub-district, Mueang Samut Prakan District, Samut Prakan Province 10280, Thailand	8

獣医学部キャンパスの遷移

新キャンパス整備に伴う校地（教育実施場所）遷移について

施設整備計画

1. 森之宮キャンパスが2025年度開設
2. 阿倍野キャンパスに新学舎が2025年度開設

2022年度 新大学開 学	大学	学年					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
	新大学（1期生）	中百舌鳥 りんくう（後 期週1回）					
	大阪府立大学		りんくう				



- 1年次 基幹教育「中百舌鳥キャンパス」「りんくうキャンパス（後期週1回）」

2023年度	大学	学年					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
	新大学（1、2期生）	中百舌鳥 りんくう（後 期週1回）	りんくう				
	大阪府立大学		りんくう				



- 1年次 基幹教育「中百舌鳥キャンパス」「りんくうキャンパス（後期週1回）」
- 2年次以降 専門教育「りんくうキャンパス」

2024年度	大学	学年					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
	新大学（1、2、3期生）	中百舌鳥 りんくう（後 期週1回）	りんくう				
	大阪府立大学		りんくう				



- 1年次 基幹教育「中百舌鳥キャンパス」「りんくうキャンパス（後期週1回）」
- 2年次以降 専門教育「りんくうキャンパス」

2025年度 以降 森之宮キャン パス、阿 倍野新学舎 開設	大学	学年					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
	新大学（1、2、3、4期生）	森之宮 りんくう（後 期週1回）	りんくう				
	大阪府立大学		りんくう				

- 1年次 基幹教育「森之宮キャンパス」「りんくうキャンパス（後期週1回）」
- 2年次以降 専門教育「りんくうキャンパス」

獣医学科のキャリア形成支援専門科目配置状況

